

明治後期以降の文学作品から捉えた 大阪固有の水辺の魅力に関する考察

緑地環境計画工学研究室

古川幸奈

研究背景および目的

■大阪では「水都再生」をキーワードに都市整備が進められ、個性化に向けた賑わいある水辺の創出が課題となっている。



目的

主観的体感だけでなく時代思潮や地域性も反映していると考えられる文学作品を通じて、

近代化の中で変容した川に対する人々の態度や評価を考察することで、時代時代に応じた大阪固有の水辺の魅力を探ることを目的とする。

論文の構成

STEP1

- 研究背景および目的
- 研究方法の設定
調査対象作品の選定
調査・解析方法の設定



STEP2

- 作中における人と水辺の接触行為から見た時代区分とその時代特性
—Actにおける解析を通じて—



STEP3

- 作中に描かれた河川景観とその評価
—シーンにおける解析を通じて—



STEP4

- 文学作品から捉えた大阪固有の水辺の魅力

調査対象作品の選定

■ 調査対象作品の抽出条件

発表されて以来多くの人に読まれ、社会的認知度が高い作品

各時代の大阪の市街地における日常的な生活とともに心理的な描写に優れているもの

調査対象作品の選定

■ 調査対象作品の抽出条件

発表されて以来多くの人に読まれ、社会的認知度が高い作品

各時代の大阪の市街地における日常的な生活とともに心理的な描写に優れているもの



『大阪文学地図』(東秀三, 1993, 編集工房ノア)より、明治後期以降の大阪の市街地を主な舞台とする24作品を抽出

■ 調査対象作品

	表題	作者
○	大阪の宿	水上瀧太郎
×	卍(まんじ)	谷崎潤一郎
×	夫婦善哉	織田作之助
×	木の都	織田作之助
×	細雪	谷崎潤一郎
×	鬪牛	井上靖
○	暖簾	山崎豊子
○	花のれん	山崎豊子

	表題	作者
○	エロ事師たち	野坂昭如
×	アメリカひじき	野坂昭如
○	泥の河	宮本輝
○	道頓堀川	宮本輝
×	青が散る	宮本輝
×	てんのうじ村	難波利三
○	菓子の家	伊集院静
×	陽炎球状	赤瀬川準

	表題	作者
×	のんきな患者	梶井基次郎
○	アド・バルーン	織田作之助
×	プールサイド小景	庄野潤三
▲	日本三文オペラ	開高健
×	それぞれの終楽章	阿部牧朗
○	私の大阪八景	田辺聖子
×	カウントプラン	黒川博之
×	千すじの黒髪	田辺聖子

凡例: ○…調査対象作品 ×…調査対象外の作品 ▲…調査対象として適さない作品

調査対象作品の選定

■ 調査対象作品の抽出条件

発表されて以来多くの人に読まれ、社会的認知度が高い作品

各時代の大阪の市街地における日常的な生活とともに心理的な描写に優れているもの



『大阪文学地図』(東秀三, 1993, 編集工房ノア)より、明治後期以降の大阪の市街地を主な舞台とする24作品を抽出

24作品中、大阪の市街地を流れる市内河川が描かれていた9作品を調査対象とした

■ 調査対象作品

	表題	作者
○	大阪の宿	水上瀧太郎
×	卍(まんじ)	谷崎潤一郎
×	夫婦善哉	織田作之助
×	木の都	織田作之助
×	細雪	谷崎潤一郎
×	鬪牛	井上靖
○	暖簾	山崎豊子
○	花のれん	山崎豊子

	表題	作者
○	エロ事師たち	野坂昭如
×	アメリカひじき	野坂昭如
○	泥の河	宮本輝
○	道頓堀川	宮本輝
×	青が散る	宮本輝
×	てんのうじ村	難波利三
○	菓子の家	伊集院静
×	陽炎球状	赤瀬川準

	表題	作者
×	のんきな患者	梶井基次郎
○	アド・バルーン	織田作之助
×	プールサイド小景	庄野潤三
▲	日本三文オペラ	開高健
×	それぞれの終楽章	阿部牧朗
○	私の大阪八景	田辺聖子
×	カウントプラン	黒川博之
×	千すじの黒髪	田辺聖子

凡例: ○…調査対象作品 ×…調査対象外の作品 ▲…調査対象として適さない作品

■ 調査および解析方法 (Actにおける解析)

- Actの定義 : 川に関する名詞句を含む一幕分の文脈

調査および解析方法 (Actにおける解析)

■ Actの定義：川に関する名詞句を含む一幕分の文脈

■ Actの抽出条件

- ①本文中から川に関する名詞句を全て抽出するとともに、それらの名詞句を含む文脈を全て抽出する。
- ②川に関する名詞句が、地名や場所名を示すだけに用いられているものや、思い出や話題の中で取り上げられ、直接視対象となっていないものばかりを含む文脈は除外する。
- ③除外されず残った文脈をActとする。

調査および解析方法 (Actにおける解析)

■ Actの定義：川に関する名詞句を含む一幕分の文脈

■ Actの抽出条件

■ Actの抽出結果

①本文中から川に関する名詞句を全て抽出するとともに、それらの名詞句を含む文脈を全て抽出する。

②川に関する名詞句が、地名や場所名を示すだけに用いられているものや、思い出や話題の中で取り上げられ、直接視対象となっていないものばかりを含む文脈は除外する。

③除外されず残った文脈をActとする。

表題	Act数
アド・バルーン	3
エロ事師たち	1
大阪の宿	12
菓子の家	1
泥の河	18

表題	Act数
道頓堀川	10
暖簾	6
花のれん	4
私の大阪八景	6
計	61

調査および解析方法 (Actにおける解析)

■ Actの定義：川に関する名詞句を含む一幕分の文脈

■ Actの抽出条件

■ Actの抽出結果

①本文中から川に関する名詞句を全て抽出するとともに、それらの名詞句を含む文脈を全て抽出する。

②川に関する名詞句が、地名や場所名を示すだけに用いられているものや、思い出や話題の中で取り上げられ、直接視対象となっていないものばかりを含む文脈は除外する。

③除外されず残った文脈をActとする。

表題	Act数
アド・バルーン	3
エロ事師たち	1
大阪の宿	12
菓子の家	1
泥の河	18

表題	Act数
道頓堀川	10
暖簾	6
花のれん	4
私の大阪八景	6
計	61

■ Actにおける人と水辺の接触行為の抽出例

本文 (花のれんAct1より)	人と水辺の接触行為
吉三郎を乗せた黒い箱型の病院車が、静かに走り出した。(中略)・・・西横堀川に沿って走り、平野町から淀屋橋のあたりまで来るともう、夜が白々と明けかけていた。鉛色に澱んだように流れていた堂島川が、急に朝の光を受けて青味を帯び、河面が白く輝きだした・・・(以下省略)	

調査および解析方法 (Actにおける解析)

■ Actの定義：川に関する名詞句を含む一幕分の文脈

■ Actの抽出条件

■ Actの抽出結果

①本文中から川に関する名詞句を全て抽出するとともに、それらの名詞句を含む文脈を全て抽出する。

②川に関する名詞句が、地名や場所名を示すだけに用いられているものや、思い出や話題の中で取り上げられ、直接視対象となっていないものばかりを含む文脈は除外する。

③除外されず残った文脈をActとする。

表題	Act数
アド・バルーン	3
エロ事師たち	1
大阪の宿	12
菓子の家	1
泥の河	18

表題	Act数
道頓堀川	10
暖簾	6
花のれん	4
私の大阪八景	6
計	61

■ Actにおける人と水辺の接触行為の抽出例

本文 (花のれんAct1より)	人と水辺の接触行為
吉三郎を乗せた黒い箱型の病院車が、静かに走り出した。(中略)・・・ <u>西横堀川に沿って走り</u> 、平野町から淀屋橋のあたりまで来るともう、夜が白々と明けかけていた。鉛色に澱んだように流れていた堂島川が、急に朝の光を受けて青味を帯び、河面が白く輝きだした・・・(以下省略)	移動

調査および解析方法 (Actにおける解析)

■ Actの定義：川に関する名詞句を含む一幕分の文脈

■ Actの抽出条件

■ Actの抽出結果

①本文中から川に関する名詞句を全て抽出するとともに、それらの名詞句を含む文脈を全て抽出する。

②川に関する名詞句が、地名や場所名を示すだけに用いられているものや、思い出や話題の中で取り上げられ、直接視対象となっていないものばかりを含む文脈は除外する。

③除外されず残った文脈をActとする。

表題	Act数
アド・バルーン	3
エロ事師たち	1
大阪の宿	12
菓子の家	1
泥の河	18

表題	Act数
道頓堀川	10
暖簾	6
花のれん	4
私の大阪八景	6
計	61

■ Actにおける人と水辺の接触行為の抽出例

本文 (花のれんAct1より)	人と水辺の接触行為
吉三郎を乗せた黒い箱型の病院車が、静かに走り出した。(中略)・・・ <u>西横堀川に沿って走り</u> 、平野町から淀屋橋のあたりまで来るともう、夜が白々と明けかけていた。 <u>鉛色に澱んだように流れていた堂島川が、急に朝の光を受けて青味を帯び、河面が白く輝きだした</u> ・・・(以下省略)	移動 水面の表情を眺める

調査および解析方法 (Actにおける解析)

■ Actの定義：川に関する名詞句を含む一幕分の文脈

■ Actの抽出条件

■ Actの抽出結果

①本文中から川に関する名詞句を全て抽出するとともに、それらの名詞句を含む文脈を全て抽出する。

②川に関する名詞句が、地名や場所名を示すだけに用いられているものや、思い出や話題の中で取り上げられ、直接視対象となっていないものばかりを含む文脈は除外する。

③除外されず残った文脈をActとする。

表題	Act数
アド・バルーン	3
エロ事師たち	1
大阪の宿	12
菓子の家	1
泥の河	18

表題	Act数
道頓堀川	10
暖簾	6
花のれん	4
私の大阪八景	6
計	61

■ Actにおける人と水辺の接触行為の抽出例

本文 (花のれんAct1より)	人と水辺の接触行為
吉三郎を乗せた黒い箱型の病院車が、静かに走り出した。(中略)・・・ <u>西横堀川に沿って走り</u> 、平野町から淀屋橋のあたりまで来るともう、夜が白々と明けかけていた。 <u>鉛色に澱んだように流れていた堂島川が</u> 、急に朝の光を受けて青味を帯び、 <u>河面が白く輝きだした</u> ・・・(以下省略)	移動 水面の表情を眺める

人と水辺の接触行為
の抽出結果



全228行為

人と水辺の接触行為の類型化結果

産業活動	第2次産業(工業)
	第2次産業(木遣り)
	第3次産業(商業・その他)
	第3次産業(牡蠣舟)
	第3次産業(交通・運搬)
レクリエーション	川や川の景色を眺める
	川と建物の中の人間活動を見る
	倒景を眺める
	生物を見る
	水面の表情を見る
	橋を見る
	たたずむ
	休息(座る)
	納涼
	観月
	貸しボート
	釣り
	子供が遊ぶ
	天神祭り

生活	居住(川辺・川筋)
	居住(舟)
	洗濯
	移動
水質	川の濁りを見る
	川の中の泥や泥土を見る
	川の中のゴミや汚れを見る
	ゴミ捨て
避難	川から避難する
	避難地
その他	汐の匂いをかぐ
	人間活動に関わる匂いをかぐ
	川風を感じる
	人間活動に関わる音を聞く
	自殺未遂
	川さらいをする
	死者を弔う

➔ 6大分類、35小分類に類型化

人と水辺の接触行為からみた各時代の特性

時代区分	人と水辺の 接触行為 作品名・Act No.	産業			生活		レクリエーション						水質		避難		その他の行為の多様性					
		第2次産業（木遣り）	第3次産業（牡蠣舟）	その他の行為の多様性	洗濯	その他の行為の多様性	たたずむ	休息	納涼	観月	貸しボート	子供が遊ぶ	天神祭り	その他の行為の多様性	ゴミ捨て	水面に捉えたもの		川から避難する	避難地			
第1期	明治後期 暖簾Act1-2	●		やや多様		やや多様		●											濁り			やや多様
第2期	大正期 アドバルーンAct1			やや多様		やや多様	●		●										泥や泥土			やや多様
	花のれんAct1			やや多様		やや多様													泥や泥土			やや多様
	花のれんAct2			やや多様		やや多様													泥や泥土			やや多様
	大阪の宿Act1-9 大阪の宿Act10-12		●	やや多様	●	やや多様	●				●	●							泥や泥土			やや多様
第3期	昭和初期 花のれんAct3			多様		乏しい													泥や泥土			多様
	アドバルーンAct2-3			多様		乏しい		●											泥や泥土			多様
	暖簾Act3-4			多様		乏しい													泥や泥土	●		多様
	花のれんAct4		●	多様		乏しい													泥や泥土			多様
	暖簾Act5			多様		乏しい													泥や泥土			多様

人と水辺の接触行為からみた各時代の特性

時代区分	人と水辺の 接触行為 作品名・Act No.	産業			生活		レクリエーション						水質		避難		その他の行為の多様性					
		第2次産業（木遣り）	第3次産業（牡蠣舟）	その他の行為の多様性	洗濯	その他の行為の多様性	たたずむ	休息	納涼	観月	貸しボート	子供が遊ぶ	天神祭り	その他の行為の多様性	ゴミ捨て	水面に捉えたもの		川から避難する	避難地			
第1期	明治後期 暖簾Act1-2			やや多様		やや多様		●											濁り			やや多様
第2期	大正期 アドバルーンAct1			やや多様		やや多様		●		●									泥や泥土			やや多様
	花のれんAct1			やや多様		やや多様		●											泥や泥土			やや多様
	花のれんAct2			やや多様		やや多様		●											泥や泥土			やや多様
	大阪の宿Act1-9 大阪の宿Act10-12		●	やや多様	●	やや多様	●				●	●							泥や泥土			やや多様
第3期	昭和初期 花のれんAct3			多様		乏しい		●											泥や泥土			多様
	アドバルーンAct2-3			多様		乏しい		●											泥や泥土			多様
	暖簾Act3-4			多様		乏しい		●											泥や泥土	●		多様
	花のれんAct4		●	多様		乏しい		●											泥や泥土			多様
	暖簾Act5			多様		乏しい		●											泥や泥土	●		多様

人と水辺の接触行為からみた各時代の特性

時代区分	人と水辺の 接触行為 作品名・Act No.	産業			生活		レクリエーション						水質		避難		その他の行為の多様性				
		第2次産業（木遣り）	第3次産業（牡蠣舟）	その他の行為の多様性	洗濯	その他の行為の多様性	たたずむ	休息	納涼	観月	貸しボート	子供が遊ぶ	天神祭り	その他の行為の多様性	ゴミ捨て	水面に捉えたもの		川から避難する	避難地		
第1期	明治後期 暖簾Act1-2	●		やや多様		やや多様		●											濁り		やや多様
第2期	大正期 アドバルーンAct1			やや多様		やや多様	●		●										泥や泥土		やや多様
	花のれんAct1			やや多様		やや多様													泥や泥土		やや多様
	花のれんAct2			やや多様	●	やや多様													泥や泥土		やや多様
	大阪の宿Act1-9 大阪の宿Act10-12		●	やや多様	●	やや多様													泥や泥土		やや多様
第3期	昭和初期 花のれんAct3			多様		乏しい													泥や泥土		多様
	アドバルーンAct2-3			多様		乏しい		●											泥や泥土		多様
	暖簾Act3-4			多様		乏しい													泥や泥土	●	多様
	花のれんAct4		●	多様		乏しい													泥や泥土		多様
	暖簾Act5			多様		乏しい													泥や泥土		多様

人と水辺の接触行為からみた各時代の特性

時代区分	人と水辺の 接触行為 作品名・Act No.	産業			生活		レクリエーション						水質		避難		その他の行為の多様性			
		第2次産業（木遣り）	第3次産業（牡蠣舟）	その他の行為の多様性	洗濯	その他の行為の多様性	たたずむ	休息	納涼	観月	貸しボート	子供が遊ぶ	天神祭り	その他の行為の多様性	ゴミ捨て	水面に捉えたもの		川から避難する	避難地	
第1期	明治後期 暖簾Act1-2	●		やや多様		やや多様		●							乏しい		濁り			やや多様
第2期	大正期 アドバルーンAct1			やや多様		やや多様	●		●						多様		泥や泥土			やや多様
	花のれんAct1			やや多様		やや多様	●								多様		泥や泥土			やや多様
	花のれんAct2			やや多様	●	やや多様	●								多様		泥や泥土			やや多様
	大阪の宿Act1-9 大阪の宿Act10-12		●	やや多様	●	やや多様	●			●	●				多様		泥や泥土			やや多様
第3期	昭和初期 花のれんAct3			多様		乏しい									やや多様		泥や泥土			多様
	アドバルーンAct2-3			多様		乏しい		●							やや多様		泥や泥土			多様
	暖簾Act3-4			多様		乏しい									やや多様	◎	泥や泥土	◎		多様
	花のれんAct4		●	多様		乏しい									やや多様	◎	泥や泥土			多様
	暖簾Act5			多様		乏しい									やや多様	◎	泥や泥土			多様

人と水辺の接触行為からみた各時代の特性

時代区分	人と水辺の 接触行為 作品名・Act No.	産業			生活	レクリエーション						水質		避難		その他の行為の多様性		
		第2次産業（木遣り）	第3次産業（牡蠣舟）	その他の行為の多様性	洗濯 その他の行為の多様性	たたずむ	休息	納涼	観月	貸しボート	子供が遊ぶ	天神祭り	その他の行為の多様性	ゴミ捨て	水面に捉えたもの		川から避難する	避難地
第4期 戦時中	私の大阪八景Act1-2			多様	やや多様	●●●						乏しい		なし			●	やや多様
	私の大阪八景Act3-6			多様	やや多様	●●●						乏しい		なし			●	やや多様
	暖簾Act6			多様	やや多様	●●●						乏しい		なし			●	やや多様
第5期 戦後から高度成長期	泥の川Act1-18			やや多様	多様	●					●	●	多様		汚れやゴミ			多様
	エロ事師たちAct1			やや多様	多様	●												多様
	道頓堀川Act1-8 道頓堀川Act9-10			やや多様	多様	●												多様
第6期 現代	菓子の家Act1			乏しい	なし					●		乏しい		なし				乏しい

人と水辺の接触行為からみた各時代の特性

時代区分	人と水辺の 接触行為 作品名・Act No.	産業			生活	レクリエーション							水質		避難		その他の行為の多様性			
		第2次産業 (木遣り)	第3次産業 (牡蠣舟)	その他の行為の多様性	洗濯 その他の行為の多様性	たたずむ	休息	納涼	観月	貸しボート	子供が遊ぶ	天神祭り	その他の行為の多様性	ゴミ捨て	水面に捉えたもの	川から避難する		避難地		
第4期 戦時中	私の大阪八景Act1-2			多様	やや多様														やや多様	
	私の大阪八景Act3-6			多様	●	●	●													
	暖簾Act6			多様														●		
第5期 戦後から高度成長期	泥の川Act1-18			やや多様	多様	●														多様
	エロ事師たちAct1			やや多様	●															
	道頓堀川Act1-8 道頓堀川Act9-10			やや多様	●															
第6期 現代	菓子の家Act1			乏しい	なし							●								乏しい

汚れやゴミ

人と水辺の接触行為からみた各時代の特性

時代区分	人と水辺の 接触行為 作品名・Act No.	産業			生活	レクリエーション						水質		避難		その他の行為の多様性		
		第2次産業 (木遣り)	第3次産業 (牡蠣舟)	その他の行為の多様性	洗濯 その他の行為の多様性	たたずむ	休息	納涼	観月	貸しボート	子供が遊ぶ	天神祭り	その他の行為の多様性	ゴミ捨て	水面に捉えたもの	川から避難する	避難地	
第4期	戦時中			多様	やや多様	●	●	●					乏しい	なし			●	やや多様
	戦後から高度成長期	私の大阪八景Act1-2 私の大阪八景Act3-6 暖簾Act6			多様	●												
第5期	戦後から高度成長期	泥の川Act1-18 エロ事師たちAct1 道頓堀川Act1-8 道頓堀川Act9-10			やや多様	多様	●						多様	汚れやゴミ				多様
	現代	菓子の家Act1			乏しい	なし				●			乏しい	なし				乏しい

調査および解析方法(シーンにおける解析)

- シーンの定義：各Actにおいて情景ごとに区分した1文脈
- シーンの抽出例（暖簾Act1を例として）

A
c
t

八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。河岸に叢が生いたちへし曲げられたようなトタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。まもなく富島の船着場へ着いた。見渡す限りの荒れ果てた根深畑の中で、人家が浜筋にそって石ころのように疎らだった。吾平は富島から千船橋まで歩き、そこで始めた人力車というものに乗った。船から上がって食べたうどんが一杯五厘、千船橋から花園橋までの俵賃に二銭とられて驚いた。

調査および解析方法(シーンにおける解析)

- シーンの設定：各Actにおいて情景ごとに区分した1文脈
- シーン抽出例(暖簾Act1を例として)

《シーン1》

A
c
t

八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。河岸に叢が生いたちへし曲げられたようなトタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。まもなく富島の船着場へ着いた。見渡す限りの荒れ果てた根深畑の中で、人家が浜筋にそって石ころのように疎らだった。吾平は富島から千船橋まで歩き、そこで始めた人力車というものに乗った。船から上がって食べたうどんが一杯五厘、千船橋から花園橋までの俵賃に二銭とられて驚いた。

調査および解析方法(シーンにおける解析)

- シーンの定義：各Actにおいて情景ごとに区分した1文脈
- シーンの抽出例（暖簾Act1を例として）

《シーン2》

A
c
t

八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。河岸に叢が生いたちへし曲げられたようなトタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。まもなく富島の船着場へ着いた。見渡す限りの荒れ果てた根深畑の中で、人家が浜筋にそって石ころのように疎らだった。吾平は富島から千船橋まで歩き、そこで始めた人力車というものに乗った。船から上がって食べたうどんが一杯五厘、千船橋から花園橋までの俵賃に二銭とられて驚いた。

調査および解析方法(シーンにおける解析)

■ シーンの定義：各Actにおいて情景ごとに区分した1文脈

■ シーンの抽出例（暖簾Act1を例として）

《シーン3》

A
c
t

八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。河岸に叢が生いたちへし曲げられたようなトタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。まもなく富島の船着場へ着いた。見渡す限りの荒れ果てた根深畑の中で、人家が浜筋にそって石ころのように疎らだった。吾平は富島から千船橋まで歩き、そこで始めた人力車というものに乗った。船から上がって食べたうどんが一杯五厘、千船橋から花園橋までの俵賃に二銭とられて驚いた。

調査および解析方法(シーンにおける解析)

- シーンの定義：各Actにおいて情景ごとに区分した1文脈
- シーンの抽出例（暖簾Act1を例として）

《シーン3》

A
c
t

八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。河岸に叢が生いたちへし曲げられたようなトタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。まもなく富島の船着場へ着いた。見渡す限りの荒れ果てた根深畑の中で、人家が浜筋にそって石ころのように疎らだった。吾平は富島から千船橋まで歩き、そこで始めた人力車というものに乗った。船から上がって食べたうどんが一杯五厘、千船橋から花園橋までの俵賃に二銭とられて驚いた。

調査および解析方法(シーンにおける解析)

- シーン の 定義 : 各Actにおいて情景ごとに区分した1文脈
- シーン の 抽出例 (暖簾Act1を例として)

《シーン3》

A
c
t

八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。河岸に叢が生いたちへし曲げられたようなトタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。まもなく富島の船着場へ着いた。見渡す限りの荒れ果てた根深畑の中で、人家が浜筋にそって石ころのように疎らだった。吾平は富島から千船橋まで歩き、そこで始めた人力車というものに乗った。船から上がって食べたうどんが一杯五厘、千船橋から花園橋までの俵賃に二銭とられて驚いた。

※ “川に関わる名詞句” が場所名を示すだけのものや直接視対象とはなっていないものばかりを含むシーンは調査対象外とする。

調査および解析方法（シーンにおける解析）

- シーンの定義：各Actにおいて情景ごとに区分した1文脈
- シーンの抽出例（暖簾Act1を例として）

A
c
t

八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。河岸に叢が生いたちへし曲げられたようなトタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。まもなく富島の船着場へ着いた。見渡す限りの荒れ果てた根深畑の中で、人家が浜筋にそって石ころのように疎らだった。吾平は富島から千船橋まで歩き、そこで始めた人力車というものに乗った。船から上がって食べたうどんが一杯五厘、千船橋から花園橋までの俵賃に二銭とられて驚いた。

※ “川に関わる名詞句” が場所名を示すだけのものや直接視対象とはなっていないものばかりを含むシーンは調査対象外とする。

■ シーンの抽出結果

時代名	シーン数	時代名	シーン数	時代名	シーン数
明治後期	3	大正期	19	昭和初期	13
戦時中	9	戦後から高度成長期	60	現代	1

調査および解析方法(シーンにおける解析)

- シーンの定義：各Actにおいて情景ごとに区分した1文脈
- シーンの抽出例（暖簾Act1を例として）

A
c
t

八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。河岸に叢が生いたちへし曲げられたようなトタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。まもなく富島の船着場へ着いた。見渡す限りの荒れ果てた根深畑の中で、人家が浜筋にそって石ころのように疎らだった。吾平は富島から千船橋まで歩き、そこで始めた人力車というものに乗った。船から上がって食べたうどんが一杯五厘、千船橋から花園橋までの俵賃に二銭とられて驚いた。

※ “川に関わる名詞句” が場所名を示すだけのものや直接視対象とはなっていないものばかりを含むシーンは調査対象外とする。

■ シーンの抽出結果

時代名	シーン数	時代名	シーン数	時代名	シーン数
明治後期	3	大正期	19	昭和初期	13
戦時中	9	戦後から高度成長期	60	現代	1

▼
全105シーン

シーンにおける解析方法

●暖簾Act1より

八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。河岸に叢が生いたちへし曲げられたようなタン堀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素											川や周辺に対する総合評価						
					河川					沿川				横断施設			遠景		人間活動	自然生態	変動要因	
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁		その他	自然要素				人工要素
暖簾Act1	1	安治川	船	八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。	川幅を狭めた安治川	川岸				川岸に叢が生いたち			へし曲げられたようなタン堀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。／煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。						80トンの機帆船		白い春の陽ざし	これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした

シーンにおける解析方法

●暖簾Act1より

八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。 河岸に叢が生いたちへし曲げられたようなタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素												川や周辺に対する総合評価				
					河川					沿川			横断施設		遠景			人間活動	自然生態	変動要因	
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素
暖簾Act1	1	安治川	船	八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。	川幅を狭めた安治川	川岸				川岸に叢が生いたち			へし曲げられたようなタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。／煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。						80トンの機帆船	白い春の陽ざし	これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした

シーンにおける解析方法

●暖簾Act1より

八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。河岸に叢が生いたちへし曲げられたようなタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素											川や周辺に対する総合評価					
					河川					沿川				横断施設			遠景		人間活動	自然生態	変動要因
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁		その他	自然要素			
暖簾Act1	1	安治川	船	八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。	川幅を狭めた安治川	川岸				川岸に叢が生いたち			へし曲げられたようなタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。／煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。						80トンの機帆船	白い春の陽ざし	これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした

シーンにおける解析方法

●暖簾Act1より

八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。河岸に叢が生いたちへし曲げられたようなタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素											川や周辺に対する総合評価						
					河川					沿川				横断施設			遠景		人間活動	自然生態	変動要因	
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁		その他	自然要素				人工要素
暖簾Act1	1	安治川	船	八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。	川幅を狭めた安治川	川岸				川岸に叢が生いたち			へし曲げられたようなタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。／煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。						80トンの機帆船		白い春の陽ざし	これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした

シーンにおける解析方法

●暖簾Act1より

八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。河岸に叢が生いたちへし曲げられたようなタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素											川や周辺に対する総合評価						
					河川					沿川				横断施設			遠景		人間活動	自然生態	変動要因	
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁		その他	自然要素				人工要素
暖簾Act1	1	安治川	船	八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。	川幅を狭めた安治川	川岸				川岸に叢が生いたち			へし曲げられたようなタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。／煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。						80トンの機帆船		白い春の陽ざし	これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした

シーンにおける解析方法

●暖簾Act1より

八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。河岸に叢が生いたちへし曲げられたようなタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素											川や周辺に対する総合評価						
					河川					沿川				横断施設			遠景		人間活動	自然生態	変動要因	
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁		その他	自然要素				人工要素
暖簾Act1	1	安治川	船	八十トンの機帆船で、淡路島から大阪まで十時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から川幅を狭めた安治川をさかのぼった。	川幅を狭めた安治川	川岸				川岸に叢が生いたち			へし曲げられたようなタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。／煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。						80トンの機帆船		白い春の陽ざし	これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした

解析結果: 明治後期(3シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素													川や周辺に対する総合評価			
					河川					沿川				横断施設		遠景			人間活動	自然生態	変動要因
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他	自然要素				
暖簾 Act1	1	安治川	船	80トンの機帆船で、淡路島から大阪まで10時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から河幅を狭めた安治川をさかのぼった。	河幅を狭めた安治川	河岸				河岸に叢が生いたち			へし曲げられたようなトタン棚に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。					80トンの機帆船	白い春の陽ざし	これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。	
暖簾 Act1	2	安治川(富島の船着場)	船着場	まもなく富島の船着場に着いた				富島の船着場				人家が浜筋に沿って石ころのように疎らだった。	見渡す限りの荒れ果てた根深畑								
暖簾 Act2	1	長堀川(四つ橋のたもと)	橋のたもと	村を出るとき、聞いて来た淡路島出のものを世話する口入屋は、移転してしまっていた。長堀橋のぼうらしいという曖昧な移転先を尋ねて2時間余りも歩き廻り、四つ橋のたもとで途方にくれて、座り込んでしまった。		川岸	濁った川	川岸に並ぶ材木置場/濁った川の真ん中を筏がゆっくりと流れていった。		川べりの柳				長堀橋/四つ橋				人の足も、荷車も、吾平の前を早く通り過ぎてしまった。	木遣りが威勢よく河面にひびくき生々しい木の香りが川べりの柳の枝をすり抜けて鼻についた。		



解析結果: 明治後期 (3シーン)

Act	シーン No	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観							横断施設	その他	
					河川					沿川				空地
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路			
暖簾 Act1	1	安治川	船	80トンの機帆船で、淡路島から大阪まで10時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から河幅を狭めた安治川をさかのぼった。	河幅を狭めた安治川	河岸				河岸に叢が生いたち			へし曲げられたようなトタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。	
暖簾 Act1	2	安治川 (富島の船着場)	船着場	まもなく富島の船着場に着いた				富島の船着場					人家が浜筋に沿って石ころのように疎らだった。	
暖簾 Act2	1	長堀川 (四つ橋のたもと)	橋のたもと	村を出るとき、聞いて来た淡路島出のものを世話する口入屋は、移転してしまっていた。長堀橋のほうらしいという曖昧な移転先を尋ねて2時間余りも歩き廻り、四つ橋のたもとで途方にくれて、座り込んでしまった。	川岸	濁った川	川岸に並ぶ材木置場/濁った川の真ん中を筏がゆっくりと流れていった。		川べりの柳			見渡す限りの荒れ果てた根深畑		

河岸に叢が生いたち

へし曲げられたようなトタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。

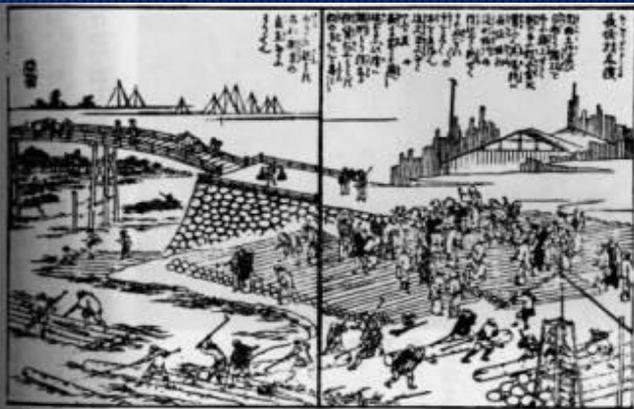
人家が浜筋に沿って石ころのように疎らだった。

見渡す限りの荒れ果てた根深畑



解析結果：明治後期(3シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素												川や周辺に対する総合評価					
					河川						沿川				横断施設			遠景		人間活動	自然生態	変動要因
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他		自然要素	人工要素			
暖簾 Act1	1	安治川	船	80トンの機帆船で、淡路島から大阪まで10時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から河幅を狭めた安治川をさかのぼった。	河幅を狭めた安治川	河岸					河岸に藎が生いたち			へし曲げられたようなトタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。					80トンの機帆船	白い春の陽ざし	これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。	
暖簾 Act1	2	安治川(富島の船着場)	船着場	まもなく富島の船着場に着いた				富島の船着場					人家が浜筋に沿って石ころのように疎らだった。	見渡す限りの荒れ果てた根深畑								
暖簾 Act2	1	長堀川(四つ橋のたもと)	橋のたもと	村を出るとき、聞いて来た淡路島出のものを世話する口入屋は、移転してしまっていた。長堀橋のほうらしいという曖昧な移転先を尋ねて2時間余りも歩き廻り、四つ橋のたもとで途方にくれて、座り込んでしまった。		川岸	濁った川	川岸に並ぶ材木置場/濁った川の真ん中を筏がゆっくりと流れていった。			川ペリの柳					長堀橋/四つ橋				人の足も、荷車も、吾平の前を早く通り過ぎてしまった。	木遣りが威勢よく河面にひびくき生々しい木の香りが川ペリの柳の枝をすり抜けて鼻についた。	



解析結果：明治後期(3シーン)

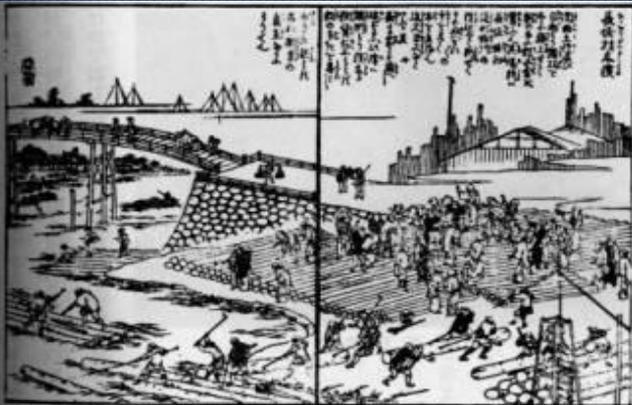
Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素												川や周辺に対する総合評価					
					河川						沿川				横断施設			遠景		人間活動	自然生態	変動要因
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他		自然要素	人工要素			
暖簾 Act1	1	安治川	船	80トンの機帆船で、淡路島から大阪まで10時間かかった。急に船あしが落ちると、大阪湾から河幅を狭めた安治川	河幅を狭めた安治川	河岸				河岸に藎が生いたち			へし曲げられたようなトタン塀に囲まれた貧弱な工場が点在していた。煙突の煙も白い春の陽ざしの中で、黒く寒々しかった。					80トンの機帆船	白い春の陽ざし	これが村の噂話に聞いた大阪かと、吾平は少年らしく何度も瞬きをした。		
暖簾 Act1						富島の船着場							人家が浜筋に沿って石ころのように疎らだった。	見渡す限りの荒れ果てた根深畑								
暖簾 Act2					濁った川	川岸に並ぶ材木置場／濁った川の真ん中を筏がゆっくりと流れていった。			川べりの柳						長堀橋／四つ橋			人の足も、荷車も、吾平の前を早く通り過ぎてしまった。	木遣りが威勢よく河面にひびき、生々しい木の香りが川べりの柳の枝をすり抜けて鼻についた。			

川岸に並ぶ材木置場／濁った川の真ん中を筏がゆっくりと流れていった。

川べりの柳

木遣りが威勢よく河面にひびき、生々しい木の香りが川べりの柳の枝をすり抜けて鼻についた。

木遣りが威勢よく河面にひびき、生々しい木の香りが川べりの柳の枝をすり抜けて鼻についた。



解析結果:大正期(19シーン)

A c t 名	シ ーン No	登 場 河 川	視 点 場	川 に か か わ る 行 為	河川景観構成要素														変 動 要 因	自 然 生 態	人 間 活 動	遠 景	橋 梁 其 他	空 地	建 築 物	沿川		河川		河川植生	河川構造物	河川占有物	水面	河道内微地形	河道	川や周辺に対する 総合評価												
アドバ ルン Act1	1	道頓堀川	橋	橋の上で一寸涼 んで													...	扇子を使っ ている人々 を影絵のよ うに見せて いる灯りは、 やがて道頓 堀のゆるや かな流れに うつっている											川 の 両 岸 の 灯 宗 衛 門 町 の 青 桜 と 道 頓 堀 の 芝 居 茶 屋 が、 ち よ う ど 川 を は さ ん で、 背 を 向 け 合 っ て い る。 そ し て ど ち ら の 背 中 に も 夏 簾 が か か っ て い て、 そ の 中 で 扇 子 を 使 っ て い る 人 々 を 影 絵 の よ う に 見 せ て い る 灯 り									戒橋 ／太 左 衛 門 橋 ／橋							(夏簾の中で)扇子 を使っている人々			私は始めて 見る心齋橋 の灯にぼうっ となっていま した。が、 しかしそれよ りも、戒橋や 太左衛門橋 の上から見た 川の両岸の 灯に心をそそ られた。
大阪の宿 Act9	1	土佐堀川	建物																												欄干							静かに下る川船			欄干に近く遥々 と見渡される 澄み渡った星 空の下を、静 かに下る川船 の音の音が、 ぎいと冴えて 聞こえて消え ていく。	秋の感じが深 かった。						
大阪の宿 Act10	2	土佐堀川	船	水に近い食台を占 めた													川岸 から渡した 踏板/牡蠣 舟																橋 袂						橋の袂にある牡蠣 舟に三田を連れ て行った。川岸 から渡した踏 板を踏んで、馴 染らしく声を かけた。									
大阪の宿 Act1	1	土佐堀川	建物	川岸の御旅館酔月 の二階の縁側の簾 椅子に腰かけて、 三田は上り下りの 舟を、見迎え見 送っていた。														泥臭い水で はあるが、 その空の色 をありありと 映す川は、 水かさも増 して、踊るよ うなさざ波を 立てて流 れている。																			川岸の御旅館酔 月／二階の縁側				上がりの舟			夥しい煤煙のた めに、年中どん よりした感じの する大阪の空で も、初夏の頃は 藍の色を濃くし て、浮き雲も白 く光り始めた。	目新しい景色 は、何時まで 見て居ても飽 きなかった。			

解析結果：大正期（19シーン）

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素												川や周辺に対する総合評価							
					河川				沿川			横断施設		遠景		人間活動		自然生態	変動要因					
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁					その他	自然要素	人工要素		
アドバラン Act1	1	道頓堀川	橋	橋の上で一寸涼んで			・・・その中で扇子を使っている人々を影絵のように見せている灯りは、やがて道頓堀のゆるやかな流れにうつっている							川の兩岸の灯／宗衛門町の青桜と道頓堀の芝居茶屋が、ちょうど川をはさんで、背を向け合っている。そしてどちらの背中にも夏簾がかかっている。その中で扇子を使っている人々を影絵のように見せている灯り		戎橋 ／太左衛門橋 ／橋				(夏簾の中で)扇子を使っている人々		私は始めて見る心齋橋の灯にぼうっとなりましたが、しかしそれよりも、戎橋や太左衛門橋の上から見た川の兩岸の灯に心をそられた。		
大阪の宿 Act9	1	土佐堀川	建物											欄干						静かに下る川船		欄干に近く遥々と見渡される澄み渡った星空の下を、静かに下る川船の艀の音が、ぎいと冴えて聞こえて消えていく。	秋の感じが深かった。	
																橋袂				橋の袂にある牡蠣舟に三田を連れて行った。／川岸から渡した踏板を踏んで、馴染らしく声をかけた。				
														川岸の御旅館酔月／二階の縁側							上がり下りの舟		夥しい煤煙のために、年中どんよりした感じのする大阪の空でも、初夏の頃は藍の色を濃くして、浮き雲も白く光り始めた。	目新しい景色は、何時まで見て居ても飽きなかった。

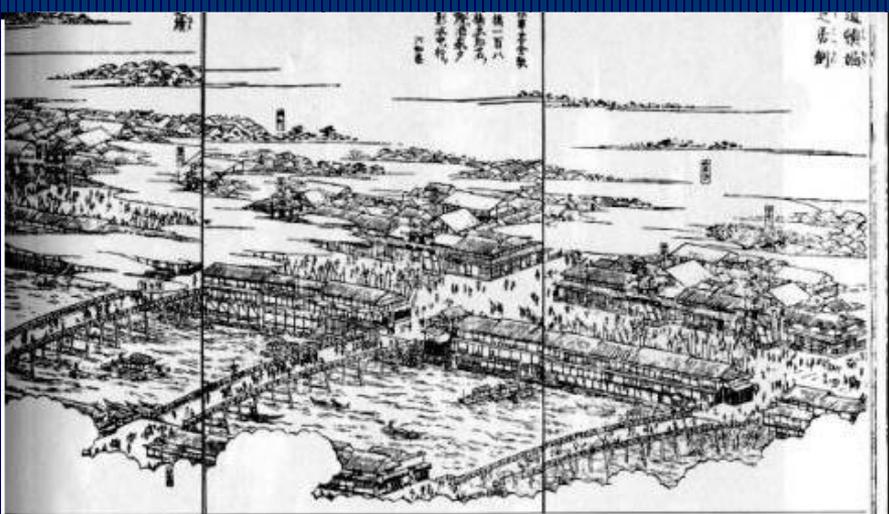


解析結果:大正期(19シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素												川や周辺に対する総合評価		
					河川				沿川			横断施設		遠景		人間活動		自然生態	変動要因
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁				
アドバラン Act1	1	道頓堀川	橋	橋の上で一寸涼んで			...その中で扇子を使っている人々を影絵のように見せている灯りは、やがて道頓堀のゆるやかな流れにうつっている						川の兩岸の灯／宗衛門町の青桜と道頓堀の芝居茶屋が、ちょうど川をはさんで、背を向け合っている。そしてどちらの背中にも夏簾がかかっている。その中で扇子を使っている人々を影絵のように見せている灯り	戎橋 ／太左衛門橋 ／橋			(夏簾の中で)扇子を使っている人々		私は始めて見る心齋橋の灯にぼうっとなりましたが、しかしそれよりも、戎橋や太左衛門橋の上から見た川の兩岸のそ
大阪の宿 Act9	1	土佐堀川	建物										欄干				静かに下る川船		深

(夏簾の中で)扇子を使っている人々

川の兩岸の灯／宗衛門町の青桜と道頓堀の芝居茶屋が、ちょうど川をはさんで、背を向け合っている。そしてどちらの背中にも夏簾がかかっている。その中で扇子を使っている人々を影絵のように見せている灯り



川岸の御旅館
月／二階の縁

色で飽

解析結果:大正期(19シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわ	河川景観構成要素													川や周辺に対する総合評価						
					河川			沿川			横断施設		遠景		人間活動	自然生態	変動要因							
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構築物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地					橋梁	その他	自然要素	人工要素		
大阪の宿 Act9	1	土佐堀川	建物			...その中で扇子を使っている人々を影絵のように見せている灯りは、やがて道頓堀のゆるやかな流れにうつっている							川の兩岸の灯／宗衛門町の青桜と道頓堀の芝居茶屋が、ちょうど川をはさんで、背を向け合っている。そしてどちらの背中にも夏簾がかかっている。その中で扇子を使っている人々を影絵のように見せている灯り		戎橋／太左衛門橋							(夏簾の中で)扇子を使っている人々		私は始めて見る心齋橋の灯にぼうっとなりましたが、しかしそれよりも、戎橋や太左衛門橋の上から見た川の兩岸のそ

...その中で扇子を使っている人々を影絵のように見せている灯りは、やがて道頓堀のゆるやかな流れにうつっている

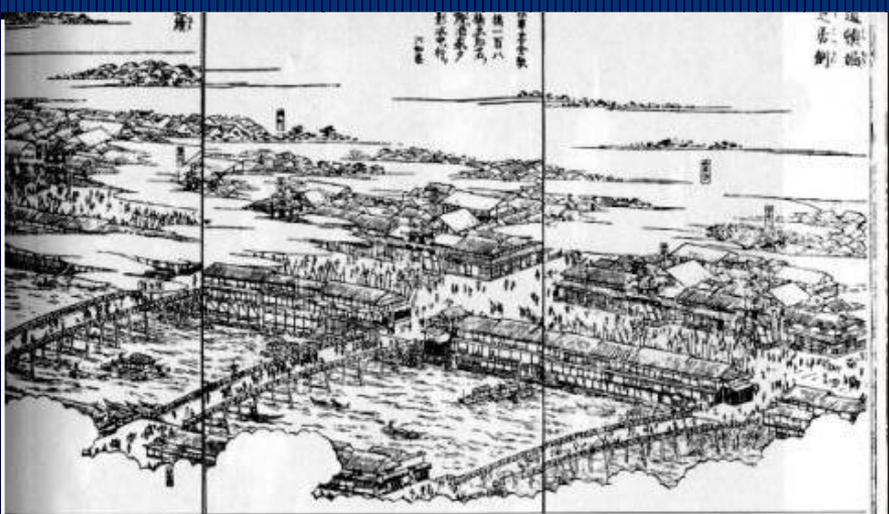
...その中で扇子を使っている人々を影絵のように見せている灯りは、やがて道頓堀のゆるやかな流れにうつっている

川の兩岸の灯／宗衛門町の青桜と道頓堀の芝居茶屋が、ちょうど川をはさんで、背を向け合っている。そしてどちらの背中にも夏簾がかかっている。その中で扇子を使っている人々を影絵のように見せている灯り

(夏簾の中で)扇子を使っている人々

(夏簾の中で)扇子を使っている人々

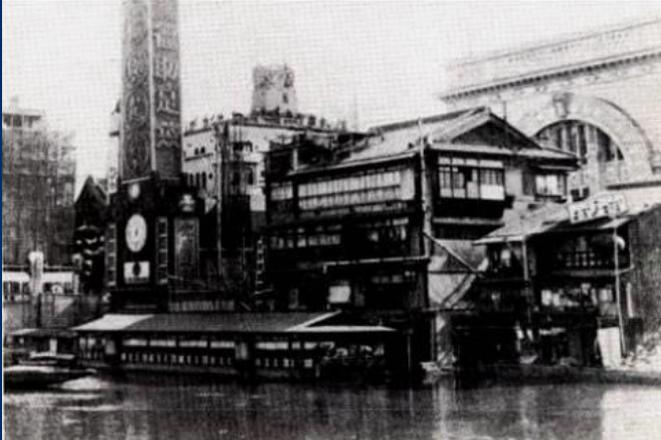
川の兩岸の灯／宗衛門町の青桜と道頓堀の芝居茶屋が、ちょうど川をはさんで、背を向け合っている。そしてどちらの背中にも夏簾がかかっている。その中で扇子を使っている人々を影絵のように見せている灯り



川岸の御旅館 月／二階の縁

解析結果：大正期（19シーン）

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素													川や周辺に対する総合評価				
					河川				沿川			横断施設		遠景		人間活動	自然生態		変動要因			
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁					その他	自然要素	人工要素
アドバラン Act1	1	道頓堀川	橋	橋の上で一寸涼んで			…その中で扇子を使っている人々を影絵のように見せている灯りは、やがて道頓堀のゆるやかな流れにうつっている						川の兩岸の灯／宗衛門町の青桜と道頓堀の芝居茶屋が、ちょうど川をはさんで、背を向け合っている。そしてどちらの背中にも夏簾がかかっている。その中で扇子を使っている人々を影絵のように見せている灯り		戒橋／太左衛門橋／橋			(夏簾の中で)扇子を使っている人々			私は始めて見る心齋橋の灯にぼうっとなりましたが、しかしそれよりも、戒橋や太左衛門橋の上から見た川の兩岸の灯に心をそられた。	
大阪の宿 Act9	1	土佐堀川	建物										欄干					静かに下る川船		欄干に近く遥々と見渡される澄み渡った星空の下を、静かに下る川船の艀の音が、ぎいと冴えて聞こえて消えていく。	秋の感じが深かった。	
															橋袂			橋の袂にある牡蠣舟に三田を連れて行った。／川岸から渡した踏板を踏んで、馴染らしく声をかけた。				
													川岸から渡した踏板/牡蠣舟						上がり下りの舟		夥しい煤煙のために、年中どんよりした感じのする大阪の空でも、初夏の頃は藍の色を濃くして、浮き雲も白く光り始めた。	目新しい景色は、何時まで見て居ても飽きなかった。



解析結果:大正期(19シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素													川や周辺に対する総合評価					
					河川				沿川			横断施設		遠景		人間活動	自然生態		変動要因				
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁					その他	自然要素	人工要素	
アドバラン Act1	1	道頓堀川	橋	橋の上で一寸涼んで			...その中で扇子を使っている人々を影絵のように見せている灯りは、やがて道頓堀のゆるやかな流れにうつっている						川の兩岸の灯／宗衛門町の青桜と道頓堀の芝居茶屋が、ちょうど川をはさんで、背を向け合っている。そしてどちらの背中にも夏簾がかかっている		戒橋／太左衛門橋／橋			(夏簾の中で)扇子を使っている人々	橋の袂にある牡蠣舟に三田を連れて行った。／川岸から渡した踏板を踏んで、馴染らしく声をかけた。				
大阪の宿 Act9	1	土佐堀川	建物															静かに下る川船	トを、静かに下る川船の艀の音が、ぎいと冴えて聞こえて消えていく。	橋の袂にある牡蠣舟に三田を連れて行った。／川岸から渡した踏板を踏んで、馴染らしく声をかけた。	上がり下りの舟	夥しい煤煙のために、年中どんよりした感じのする大阪の空でも、初夏の頃は藍の色を濃くして、浮き雲も白く光り始めた。	目新しい景色は、何時まで見て居ても飽きなかった。

川岸から渡した踏板／牡蠣舟

橋の袂にある牡蠣舟に三田を連れて行った。／川岸から渡した踏板を踏んで、馴染らしく声をかけた。

川岸から渡した踏板／牡蠣舟

橋の袂にある牡蠣舟に三田を連れて行った。／川岸から渡した踏板を踏んで、馴染らしく声をかけた。



解析結果：大正期(19シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素													川や周辺に対する総合評価			
					河川					沿川				横断施設		遠景			人間活動	自然生態	変動要因
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他	自然要素				
大阪の宿 Act8	1	土佐堀川	建物	(三田は亀の子を)何時迄も欄干の外に首を突き出して見ている	浅瀬の石	土佐堀の水も澄み／水の干る時／満潮の中高にふくらむ水						欄干						さしにも盛んだった貸端艇も数が少なくなったが、そのかわりに小舟で網を打つ人がちらほら見えた。	三田の部屋の下の川岸を住家とする泥亀は、夏の間に相手を見つけて、やや形の小さいのと二匹になっていた。水の干る時には浅瀬の石の上に並んで背中を乾かし、満潮の中高にふくらむ水に漂ってはからだを擦り付けて泳ぎ廻った。	酔月の二階に照りつけた西日の色も日に日に薄くなってきた。	木や草の少ない大阪の町は、はっきりと秋の景色をあらわさないが、それでも土佐堀の水も澄み、酔月の二階に照りつけた西日の色も薄くなってきた。／三田はその二匹の亀の子を見るのを喜ん
大阪の宿 Act11	1	土佐堀川	建物			雨の降る日には、川の水も白けて寒く												海のほうから来る？の群れが白雪の翼をひるがえして飛ぶ	二月の末から三月へ欠けて長閑な日もあったが、風の日も多かった。雨の降る日には、川の水も白けて寒く	(雨の降る日には)見ている丈でも底冷えがして、なかなか火鉢は手放せなかった。	
大阪の宿 Act12	1	土佐堀川	建物			ぬるみ始めた水 泥臭い水ではあるが、その空の色をありありと映す川は、水かさも増して、踊るようなさざ波を					石垣								寒いうちは石垣の間にでも冬眠していたのか、ちっとも姿を見せなかった亀の子が、ぬるみ始めた水に夫婦でぽっかりと浮かびだした。		
大阪の宿 Act5	1	土佐堀川	建物	おつぎは三田を…三番の部屋の前まで連れて行った。其処の縁側のはずれから、欄干につかまって身を延ばし、顔を突き出すと、隣の空き地が見えるのである。	川岸	夕方…西日の真盛りで、川水もどんよりと濁み						縁側／欄干							川岸にしゃがんで洗濯をしているのは教会の真向の家の娘だった。		

川岸にしゃがんで洗濯をしているのは教会の真向の家の娘だった。

川岸にしゃがんで洗濯をしているのは教会の真向の家の娘だった。

解析結果：大正期(19シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素													川や周辺に対する総合評価							
					河川				沿川				横断施設		遠景		人間活動		自然生態	変動要因					
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素	人工要素			
大阪の宿 Act8	1	土佐堀川	建物	(三田は亀の子を)何時迄も欄干の外に首を突き出して見ている	浅瀬の石	土佐堀の水も澄み／水の干る時／満潮の中高にふくらむ水																			木や草の少い大阪の町は、はっきりと秋の景色をあらわさないが、それでも土佐堀の水も澄み、酔月の二階に照りつけた西日の色も薄くなってきた。／三田はその二匹の亀の子を見るのを喜んだ。
大阪の宿 Act11	1	土佐堀川	建物			雨の降る日には、川の水も白けて寒く																			から三長閑たも多の降川の寒く
大阪の宿 Act12	1	土佐堀川	建物			ぬるみ始めた水 泥臭い水ではあるが、その空の色をありありと映す川は、水かさも増して、踊るようなさざ波を				石垣														も姿を見せなかった亀の子が、ぬるみ始めた水に夫婦でぽっかりと浮かびだした。	
大阪の宿 Act5	1	土佐堀川	建物	おつぎは三田を…三番の部屋の前まで連れて行った。其処の縁側のはずれから、欄干につかまって身を延ばし、顔を突き出すと、隣の空き地が見えるのである。	川岸	夕方…西日の真盛りで、川水もどんよりと濁み							縁側／欄干												川岸にしゃがんで洗濯をしているのは教会の真向の家の娘だった。

土佐堀の水も澄み

木や草の少い大阪の町は、はっきりと秋の景色をあらわさないが、それでも土佐堀の水も澄み、酔月の二階に照りつけた西日の色も薄くなってきた。

解析結果:大正期(19シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素												川や周辺に対する総合評価										
					河川				沿川				横断施設		遠景			人間活動	自然生態	変動要因							
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素	人工要素					
大阪の宿 Act8	1	土佐堀川	建物	(三田は亀の子を)何時迄も欄干の外に首を突き出して見ている	浅瀬の石	土佐堀の水も澄み／水の干る時／満潮の中高にふくらむ水												欄干					さしにも盛んだった貸端艇も数が少なくなったが、そのか	三田の部屋の下の川岸を住家とする泥亀は、夏の	酔月の二階に照りつけた西日の色も薄くなってきた。	木や草の少い大阪の町は、はっきりと秋の景色をあらわさないが、それでも土佐堀の水も澄み、酔月の二階に照りつけた西日の色も薄くなってきた。／三田はその二匹の亀の子を見るのを喜ん	
大阪の宿 Act11	1	土佐堀川	建物			雨の降る日には、川の水も白けて寒く																				から三長閑たも多の降川の寒く	(雨の降る日には)見ている丈でも底冷えがして、なかなか火鉢は手放せなかった。
大阪の宿 Act12	1	土佐堀川	建物			ぬるみ始めた水 泥臭い水ではあるが、その空の色をありありと映す川は、水かさも増して、踊るようなさざ波を																					も姿を見せなかった亀の子が、ぬるみ始めた水に夫婦でぼっかりと浮かびだした。
大阪の宿 Act5	1	土佐堀川	建物	おつぎは三田を…三番の部屋の前まで連れて行った。其処の縁側のはずれから、欄干につかまって身を延ばし、顔を突き出すと、隣の空き地が見えるのである。	川岸	夕方…西日の真盛りで、川水もどんよりと濁み												縁側／欄干									川岸にしゃがんで洗濯をしているのは教会の真向の家の娘だった。

土佐堀の水も澄み

雨の降る日には、川の水も白けて寒く

木や草の少い大阪の町は、はっきりと秋の景色をあらわさないが、それでも土佐堀の水も澄み、酔月の二階に照りつけた西日の色も薄くなってきた。

解析結果：大正期(19シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素												川や周辺に対する総合評価				
					河川				沿川				横断施設		遠景			人間活動	自然生態	変動要因	
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素
大阪の宿 Act8	1	土佐堀川	建物	(三田は亀の子を)何時迄も欄干の外に首を突き出して見ている	浅瀬の石	土佐堀の水も澄み／水の干る時／満潮の中高にふくらむ水					欄干					さしにも盛んだった貸端艇も数が少なくなったが、そのか	三田の部屋の下の川岸を住家とする泥亀は、夏の	酔月の二階に照りつけた西日の色も日に日に薄	木や草の少い大阪の町は、はっきりと秋の景色をあらわさないが、それでも土佐堀の水も澄み、酔月の二階に照りつけた西日の色も薄くなってきた。／三田はその二匹の亀の子を見るのを喜ん		
天Ac				泥臭い水ではあるが、その空の色をありありと映す川は、水かさも増して、踊るようなさざ波を立てて流れている。		雨の降る日には、川の水も白けて寒く													から三長閑たも多の降川の寒く	(雨の降る日には)見ている文でも底冷えがして、なかなか火鉢は手放せなかった。	
天Ac				夕方…西日の真盛りで、川水もどんよりと澱み	川岸	ぬるみ始めた水 泥臭い水ではあるが、その空の色をありありと映す川は、水かさも増して、踊るようなさざ波を	夕方…西日の真盛りで、川水もどんよりと澱み				縁側／欄干									も姿を見せなかった亀の子が、ぬるみ始めた水に夫婦でぽっかりと浮かびだした。	
天Ac				夕方…西日の真盛りで、川水もどんよりと澱み																	

土佐堀の水も澄み

木や草の少い大阪の町は、はっきりと秋の景色をあらわさないが、それでも土佐堀の水も澄み、酔月の二階に照りつけた西日の色も薄くなってきた。

雨の降る日には、川の水も白けて寒く

泥臭い水ではあるが、その空の色をありありと映す川は、水かさも増して、踊るようなさざ波を立てて流れている。

夕方…西日の真盛りで、川水もどんよりと澱み

解析結果：大正期(19シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素												川や周辺に対する総合評価			
					河川				沿川				横断施設		遠景			人間活動	自然生態	変動要因
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他				
大阪の宿 Act8	1	土佐堀川	建物	(三田は亀の子を) 何時迄も に首を突 見ている	浅瀬	土佐堀の水					欄干					さし目に感 端艇も数 なつたが、 り小舟で つ人がち 見えた。	二田の部 の川岸を する泥亀 間に相手 けて、や さいのと なつてい なつてい 水の中 干る時 は浅瀬 の石の上 で背中 満潮の中 にふくら む水に漂 っては かりと浮 かびだした。	酔月の二階に照りつけた西日の色も日に日に薄くなってきた。	木や草の少ない大阪の町は、はっきりと秋の景色をあらわさないが、それでも土佐堀の水も澄み、酔月の二階に照りつけた西日の色も薄くなってきた。／三田はその二匹の亀の子を見るのを喜ん	
大阪の宿 Act11	1	土佐堀川	建物													海のほうから来る群れが白雪の翼をひるがえして飛ぶ	三月の末から三月へ欠けて長閑な日もあったが、風の日も多かった。雨の降る日には、川の水も白けて寒く	(雨の降る日には)見ている丈でも底冷えがして、なかなか火鉢は手放せなかった。		
大阪の宿 Act12	1	土佐堀川	建物													寒いうちは石垣の間にでも冬眠していたのか、ちっとも姿を見せなかった亀の子が、ぬるみ始めた水に夫婦でぽっかりと浮かびだした。				
大阪の宿 Act5	1	土佐堀川	建物	おつぎは三番の部で連れて其処の縁れから、構かまて身し、顔を突と、隣の空と見えるのである。													川岸にしゃがんで洗濯をしているのは教会の真向の家の娘だった。			

三田の部屋の下の川岸を住家とする泥亀は、夏の間に関手を見つけて、やや形の小さいのと二匹になっていた。水の干る時には浅瀬の石の上に並んで背中を乾かし、満潮の中高にふくらむ水に漂ってはからだを擦り付けて泳ぎ廻った。

海のほうから来る鷗の群れが白雪の翼をひるがえして飛ぶ

寒いうちは石垣の間にでも冬眠していたのか、ちっとも姿を見せなかった亀の子が、ぬるみ始めた水に夫婦でぽっかりと浮かびだした。

解析結果:大正期(19シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素												川や周辺に対する総合評価											
					河川					沿川			横断施設		遠景			人間活動	自然生態	変動要因								
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素	人工要素						
大阪の宿 Act9	1	土佐堀川	建物															欄干						静かに下る川船			欄干に近く遥々と見渡される澄み渡った星空の下を、静かに下る川船の體の音が、ぎいと冴えて聞こえて消えていく。	秋の感じが深かった。
大阪の宿 Act4	1	土佐堀川	橋の上	新地を出て、電車にそって、約束の橋の上まで来た。一筋の河に砕ける月を欄干につかまっのぞいて見た。																							「なんだか寂しいなあ。」三田は酔いがさめて、腸迄月光がしみるような気持ちだった。	
大阪の宿 Act6	1	土佐堀川	建物	会社から帰って、湯に入って、晩酌の後で飯を喰うと、縁の藤椅子に腰か																						淀川へ上る舟、河口へ下る舟の絶え間無い間を縫って、方々の貸舟屋から出る小型の端艇が、縦横に漕廻る。近年運動事は東京よりも大阪のほうが遥かにさかんだから、女でも貸端艇を漕ぐ物が頗る多い。お店の小僧と女中らしいのが相乗漕いでいるものもある。近所の亭主と女房と子供と、一家総出らしいものもある。丸鬘や銀杏返の茶屋の仲居らしいの同志で、遊んでいるものもある	九月に入っても暑さはなかなかきびしかったが、夜は流石に目に立って涼しくなった。川風/天気の良い日には、大概晩食後、すっかり暮れきる迄の時間を水の上で過ごした	(端艇が)病みつきになり、天気の良い日には、大概晩食後、すっかり暮れきる迄の時間を水の上で過ごした

一筋の川に砕ける月 / 川上も川下も けむりのように朧に、水底のように 蒼かった。

鱗は遠い幼い時の事から、数奇な今日迄を追想するらしく、何時迄も月を 仰いで佇んでいた。

解析結果:大正期(19シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素												川や周辺に対する総合評価												
					河川					沿川			横断施設		遠景			人間活動	自然生態	変動要因									
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素	人工要素							
大阪の宿 Act9	1	土佐堀川	建物														欄干						静かに下る川船			欄干に近く遥々と見渡される澄み渡った星空の下を、静かに下る川船の體の音が、ぎいと冴えて聞こえて消えていく。	秋の感じが深かった。		
大阪の宿 Act4	1	土佐堀川	橋の上	新地を出て、電車にそって、約束の橋の上まで来た。一筋の河に砕ける月を欄干につかまっのぞいて見た。			一筋の川に砕ける月／川上も川下もけむりのように朧に、水底のように蒼かった。											橋／欄干						鱗は遠い幼い時の事から、数奇な今日迄を追想するらしく、何時迄も月を仰いで佇んでいた。			「なんだか寂しいなあ。」三田は酔いがさめて、腸迄月光がしみるような気持ちだった。		
大阪の宿 Act6	1	土佐堀川	建物	会社から帰って、湯に入って、晩酌の後で飯を喰うと、縁の藤椅子に腰か																				淀川へ上る舟、河口へ下る舟の絶え間無い間を縫って、方々の貸舟屋から出る舟の端艇が。近東京ほうから来た。貸端頼る小僧のるもの子供らしい丸髻や銀杏返の茶屋の仲間らしいの同志で、遊んでいるものもある	縁側／欄干			九月に入っても暑さはなかなかきびしかったが、夜は流石に目に	(端艇が)病みつきになり、天気の良い日には、大概晩食後、すっかり暮れきる迄の時間を水の上で過ごした

一筋の川に砕ける月／川上も川下もけむりのように朧に、水底のように蒼かった。

鱗は遠い幼い時の事から、数奇な今日迄を追想するらしく、何時迄も月を仰いで佇んでいた。

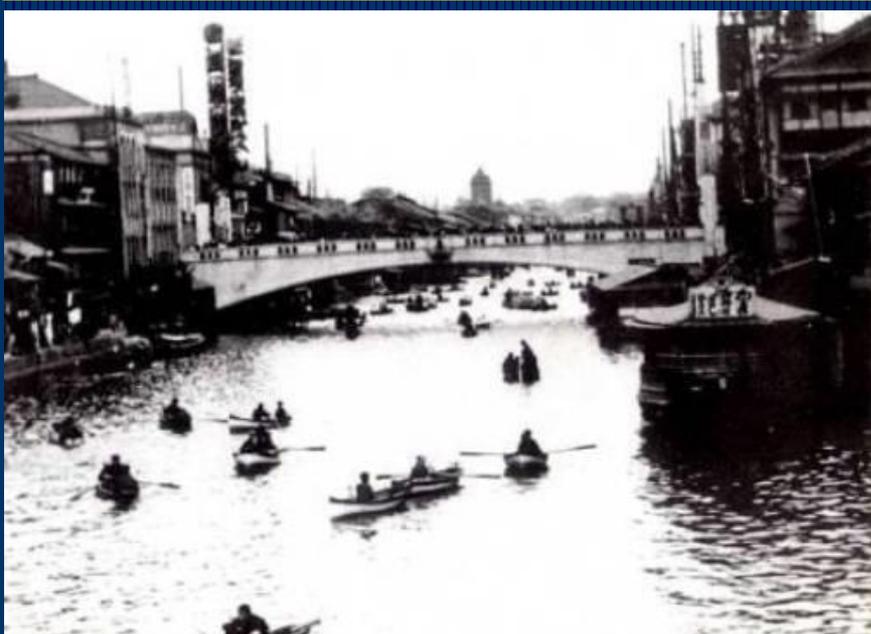
「なんだか寂しいなあ。」三田は酔いがさめて、腸迄月光がしみるような気持ちだった。

解析結果:大正期(19シーン)

三田もふいと乗ってみる気になって、一人乗りの端艇を借りたのが病みつきになり、天気の良い日には、大概晩食後、すっかり暮れきる迄の時間を水の上に過ごした

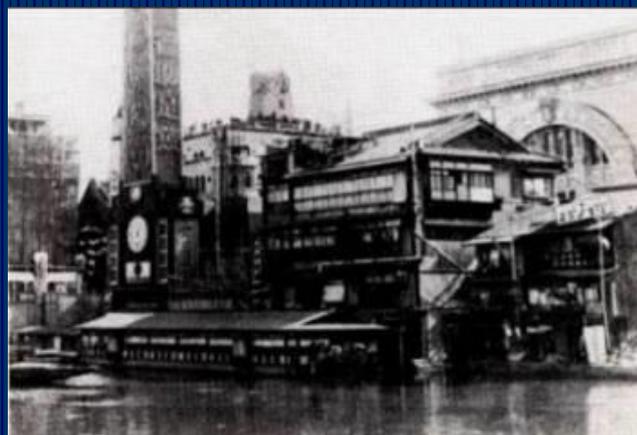
淀川へ上る舟、河口へ下る舟の絶え間無い間を縫って、方々の貸舟屋から出る小型の端艇が、縦横に漕廻る。近年運動事は東京よりも大阪のほうが遥かにさかんだから、女でも貸端艇を漕ぐ物が頗る多い。お店の小僧と女中らしいのが相乗りしているものもある。近所の亭主と女房と子供と、一家総出らしいものもある。丸髻や銀杏返の茶屋の仲居らしいの同志で、遊んでいるものもある

人間活動	自然生態	変動要因	川や周辺に対する総合評価
静かに下る川船		欄干に近く遥々と見渡される澄み渡った星空の下を、静かに下る川船の體の音が、ぎいと冴えて聞こえて消えていく。	秋の感じが深かった。
鱗は遠い幼い時の事から、数奇な今日迄を追想するらしく、何時迄も月を仰いで佇んでいた。			「なんだか寂しいなあ。」三田は酔いがさめて、腸迄月光がしみるような気持ちだった。
縁側／欄干	淀川へ上る舟、河口へ下る舟の絶え間無い間を縫って、方々の貸舟屋から出る小型の端艇が、縦横に漕廻る。近年運動事は東京よりも大阪のほうが遥かにさかんだから、女でも貸端艇を漕ぐ物が頗る多い。お店の小僧と女中らしいのが相乗っているものもある。近所の亭主と女房と子供と、一家総出らしいものもある。丸髻や銀杏返の茶屋の仲居らしいの同志で、遊んでいるものもある	九月に入っても暑さはなかなかきびしかったが、夜は流石に目に立って涼しくなった。／川風／天気の良い日には…すっかり暮れきるまでの時間	(端艇が)病みつきになり、天気の良い日には、大概晩食後、すっかり暮れきる迄の時間を水の上に過ごした



解析結果：昭和初期（13シーン）

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素													川や周辺に対する総合評価				
					河川					沿川				横断施設		遠景			人間活動	自然生態	変動要因	
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他	自然要素					人工要素
花のれん Act4	1	道頓堀川	船	橋詰の石段を下り、細い船板一枚を渡ると…柴藤の牡蠣舟だった／伊藤と多加は、四畳半ほどの小間に向かい合って坐り、酔牡蠣と吸いもの、牡蠣めしを注文した。			暗い川面に、道頓堀筋の赤い灯、青い灯が染粉を流したような鮮やかさで映っている	細い船板一枚／柴藤の牡蠣舟	橋詰の石段				道頓堀筋の赤い灯、青い灯							何時もは静かな船座敷が、今夜は今宮戎唄の客で賑わい、紺緋の着物に赤い帯紐を褌がけた女中が顔を熱らせながら立ち廻っている		ひたひたと川面の水音が聞こえる
アドバルーン Act3	1	土佐堀川	川岸				浪速橋の上を電車が通ると、その灯りが川に落ちて、波の上にさかさになった電車の形を描き出します。／波							浪速橋の上を電車が通る						提燈をつけたボートが生物のように川の上を往ったり来たりしています。		
アドバルーン Act3	2	土佐堀川	川岸	私は力なく起ち上がって、じっと川の底を覗いていると、おいと声を掛けられました。									中華料理屋の客席の灯りが消え、歯医者 の二階の灯りが消え、		電車が途絶え				ボートの影も見えなくなる	夜	夜の底は次第に深くなって行った。	
アドバルーン Act2	2	土佐堀川	川岸	公園の中に入り、川の岸に腰を下ろして煙草を									川の向う正面はちょうど北浜三丁目と二丁目の中程のあたり	公園					その料理場では鋭い電灯の光りを浴びた裸の料理人が影絵のようにうごめいていました。その上は客室で、川に面した窓側で、若い男女が料理をつついています。話し合っているのでしょうか声が聞こえないのでだんまり芝居のようです。隣の家は歯医者らしく、二階の部屋で白い診療衣を着た医者が黙々と立ち働いているのが見えました。治療してもらっているのはどこかの奥さんらしくアッパッパを着て、スリッパを履いた両足をききんとそろえて、仰向いています。		何か日々の営みのなつかしさを想わせるような風情でした。	



解析結果: 昭和初期(13シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素												人間活動	自然生態	変動要因	川や周辺に対する総合評価		
					河川					沿川					横断施設						遠景	
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素	人工要素
花のれん Act4	1	道頓堀川	船	橋詰の石段を下り、細い船板一枚を渡ると…柴藤の牡蠣舟だった／伊藤と多加は、四畳半ほどの小間に向かい合って坐り、許牡蠣と吸いもの、牡蠣めしを注文した。			暗い川面に、道頓堀筋の赤い灯、青い灯が染粉を流したような鮮やかさで映っている	細い船板一枚／柴藤の牡蠣舟	橋詰の石段				道頓堀筋の赤						可時もは静かな船座敷が、今夜は今宮戎帰りの客で賑わい、紺緋の着物に赤い帯紐を纏がけた女中が顔を熱らせながら立ち廻っている	ひたひたと川面の水音が聞こえる		
アドバルーン Act3	1	土佐堀川	川岸				浪速橋の上を電車が通ると、その灯りが川に落ちて、波の上にさかさになった電車の形を描き出します。／波												堤燈をつけたボートが生物のように川の上を往ったり来たりしています。			
アドバルーン Act3	2	土佐堀川	川岸	私は力なく起ち上がって、じっと川の底を覗いていると、おいと声を掛けられました。														ボートの影も見えなくなる	夜	夜の底は次第に深くなって行った。		
アドバルーン Act2	2	土佐堀川	川岸	公園の中に入り、川の岸に腰を下ろして煙草を									川の向う正面はちょうど北浜三丁目と二丁目の中程のあたり	公園				その料理場では鋭い電灯の光りを浴びた裸の料理人が影絵のようにうごめいていました。その上は客室で、川に面した窓側で、若い男女が料理をつついています。話し合っているのでしょうか声が聞こえないのでだんまり芝居のようです。隣の家は歯医者らしく、二階の部屋で白い診療衣を着た医者が黙々と立ち働いているのが見えました。治療してもらっているのはどこかの奥さんらしくアツパツを着て、スリッパを履いた両足をききんとそろえて、仰向いています。	何か日々の営みのなつかしさを想わせるような風情でした。			

何時もは静かな船座敷が、今夜は今宮戎帰りの客で賑わい、紺緋の着物に赤い帯紐を纏がけた女中が顔を熱らせながら立ち廻っている



解析結果: 昭和初期(13シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素												川や周辺に対する総合評価				
					河川					沿川				横断施設		遠景		人間活動	自然生態	変動要因	
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素
花のれん Act4	1	道頓堀川	船	橋詰の石段を下り、細い船板一枚を渡ると...	暗い川面に、道頓堀筋の赤い灯、青い灯が染粉を流したような鮮やかさで映っている	細い船板一枚／柴藤の牡蠣舟	橋詰の石段			道頓堀筋の赤							可時もは静かな船座敷が、今夜は今宮戎帰りの客で賑わい、紺緋の着物に赤い帯紐を纏がけた女中が顔を熱らせながら立ち廻っている	ひたひたと川面の水音が聞こえる			
アドバレン Act3					浪速橋の上を電車が通ると、その灯りが川に落ちて、波の上にさかさになった電車の形を描き出します。／波												堤燈をつけたボートが生物のように川の上を往ったり来たりしています。				
アドバレン Act3																	ボートの影も見えなくなる	夜	夜の底は次第に深くなって行った。		
アドバレン Act2	2	土佐堀川	川岸	公園の中に入り、川の岸に腰を下ろして煙草を													川の向う正面はちょうど北浜三丁目と二丁目の中程のあたり	公園		その料理場では鋭い電灯の光りを浴びた裸の料理人が影絵のようにうごめいていました。その上は客室で、川に面した窓側で、若い男女が料理をつついています。話し合っているのでしょうか声が聞こえないのでだんまり芝居のようです。隣の家は歯医者らしく、二階の部屋で白い診療衣を着た医者が黙々と立ち働いているのが見えました。治療してもらっているのはどこかの奥さんらしくアツパツを着て、スリッパを履いた両足をききんとそろえて、仰向いています。	何か日々の営みのなつかしさを想わせるような風情でした。

暗い川面に、道頓堀筋の赤い灯、青い灯が染粉を流したような鮮やかさで映っている

何時もは静かな船座敷が、今夜は今宮戎帰りの客で賑わい、紺緋の着物に赤い帯紐を纏がけた女中が顔を熱らせながら立ち廻っている



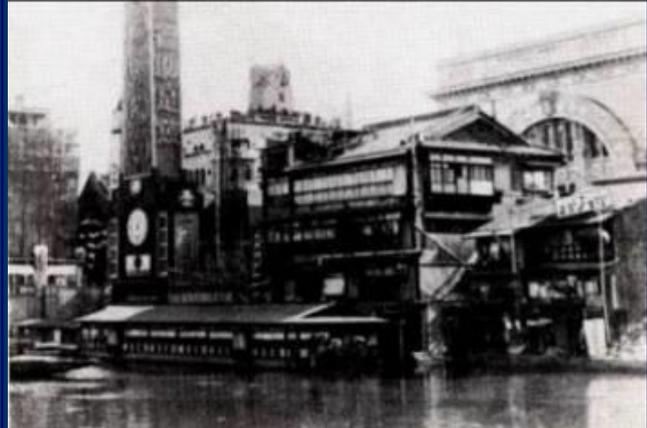
解析結果: 昭和初期(13シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素												川や周辺に対する総合評価				
					河川					沿川				横断施設		遠景		人間活動	自然生態	変動要因	
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素
花のれん Act4	1	道頓堀川	船	橋詰の石段を下り、細い船板一枚を渡ると...	暗い川面に、道頓堀筋の赤い灯、青い灯が染粉を流したような鮮やかさで映っている	細い船板一枚／柴藤の牡蠣舟	橋詰の石段			道頓堀筋の赤								可時もは静かな船座敷が、今夜は今宮戎帰りの客で賑わい、紺緋の着物に赤い帯紐を纏がけた女中が顔を熱らせながら立ち廻っている	ひたひたと川面の水音が聞こえる		
アドバレン Act3					浪速橋の上を電車が通ると、その灯りが川に落ちて、波の上にさかさになった電車の形を描き出します。／波													堤燈をつけたボートが生物のように川の上を往ったり来たりしています。			
アドバレン Act3																		ボートの影が見えなく	夜	夜の底は深く行っ	
アドバレン Act2	2	土佐堀川	川岸	公園の中に入り、川の岸に腰を下ろして煙草を														そ電灯よしてて		日々みのかしさをうな風した。	

暗い川面に、道頓堀筋の赤い灯、青い灯が染粉を流したような鮮やかさで映っている

何時もは静かな船座敷が、今夜は今宮戎帰りの客で賑わい、紺緋の着物に赤い帯紐を纏がけた女中が顔を熱らせながら立ち廻っている

ひたひたと川面の水音が聞こえる



を ついて います。話 し 合 っ て い る の で し ょ う か 声 が 聞 こ え な い の で だ ん ま り 芝 居 の よ う で す。隣 の 家 は 歯 医 者 ら し く、二 階 の 部 屋 で 白 い 診 療 衣 を 着 た 医 者 が 黙 々 と 立 ち 働 い て い る の が 見 え ま し た。治 療 し て も ら っ て い る の は ど こ か の 奥 さ ん ら し く ア ッ パ ッ パ を 着 て、ス リ ッ ツ を 履 い た 両 足 を き ち ん と そ ろ え て、仰 向 い て い ま す。

解析結果：昭和初期（13シーン）

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素											川や周辺に対する総合評価										
					河川					沿川				横断施設			遠景		人間活動	自然生態	変動要因					
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁		その他	自然要素				人工要素				
花のれん Act4	1	道頓堀川	船	橋詰の石段を下り、細い船板一枚を渡ると…柴藤の牡蠣舟だった／伊藤と多加は、四畳半ほどの小間に向かい合って坐り、牡蠣めしを注文した。			暗い川面に、道頓堀筋の赤い灯、青い灯が染粉を流したような鮮やかさで映っている	細い船板一枚／柴藤の牡蠣舟	橋詰の石段				道頓堀筋の赤い灯、青い灯							何時もは静かな船座敷が、今夜は今宵戎唄の客で賑わい、紺緋の着物に赤い帯紐を襷がけた女中が顔を熱らせながら立ち廻っている	ひたひたと川面の水音が聞こえる					
アドバルーン Act3	1	土佐堀川	川岸				浪速橋の上を電車が通ると、その灯りが川に落ちて、波の上にさかさになった電車の形を描き出します。／波												浪速橋の上を電車が通る			堤燈をつけたボートが生物のように川の上を往ったり来たりしています。				
アドバルーン Act3	2	土佐堀川	川岸	私は力なく起ち上がって、じっと川の底を覗いていると、おいと音を掛									中華料理屋の客席の灯りが消え、歯医者 の二階の灯りが消え、					電車が途絶え			ボートの影も見えなくなる	夜	夜の底は次第に深くなって行った。			
<p>川の向う正面はちょうど北浜三丁目と二丁目の中程あたりの、<u>中華料理屋の裏側に当たって、明けはなした地下室の料理場が殆ど川の水とすれすれでした。</u>その上は客室で、川に面した窓側で、若い男女が料理をつついています。隣の家は歯医者らしく、二階の部屋で白い診療衣を着た医者が黙々と立ち働いているのが見えました。</p>										<p>川の向う正面はちょうど北浜三丁目と二丁目の中程あたりの、中華料理屋の裏側に当たって、明けはなした地下室の料理場が殆ど川の水とすれすれでした。その上は客室で、川に面した窓側で、若い男女が料理をつついています。話し合っているのでしょうか声が聞こえないのでだんまり芝居のようです。隣の家は歯医者らしく、二階の部屋で白い診療衣を着た医者が黙々と立ち働いているのが見えました。治療してもらっているのはどこかの奥さんらしくアップパッパを着て、スリッパを履いた両足をきちんとそろえて、仰向いています。</p>					公園								<p>その料理場では鋭い電灯の光りを浴びた裸の料理人が影絵のようにうごめいていました。その上は客室で、川に面した窓側で、若い男女が料理をつついています。話し合っているのでしょうか声が聞こえないのでだんまり芝居のようです。隣の家は歯医者らしく、二階の部屋で白い診療衣を着た医者が黙々と立ち働いているのが見えました。治療してもらっているのはどこかの奥さんらしくアップパッパを着て、スリッパを履いた両足をきちんとそろえて、仰向いています。</p>		何か日々の営みのなつかしさを想わせるような風情でした。	

解析結果: 昭和初期(13シーン)

何か日々の営みのなつかしさを想わせるような風情でした。

(料理場では) 鋭い電灯の光りを浴びた裸の料理人が影絵のようにうごめいていました。(客室の男女は) 話し合っているのでしょうか声が聞こえないのでだんまり芝居のようです。(歯医者では) 白い診療衣を着た医者が黙々と立ち働いているのが見えました。治療してもらっているのはどこかの奥さんらしくアッパッパを着て、スリッパを履いた両足をきちんとそろえて、仰向いています。

川の向う正面はちょうど北浜三丁目と二丁目の中程あたりの、中華料理屋の裏側に当たって、明けはなした地下室の料理場が殆ど川の水とすれすれでした。その上は客室で、川に面した窓側で、若い男女が料理をつついています。隣の家は歯医者らしく、二階の部屋で白い診療衣を着た医者が黙々と立ち働いているのが見えました。

河川景観構成要素

No	沿川		横断施設		遠景		人間活動	自然生態	変動要因	川や周辺に対する総合評価
	建築物	空地	橋梁	その他	自然要素	人工要素				
道頓堀筋の赤い灯、青い灯							何時もは静かな船座敷が、今夜は今宮戎帰りの客で賑わい、紺緋の着物に赤い帯紐を纏がけた女中が顔を熱らせながら立ち廻っている		ひたひたと川面の水音が聞こえる	
			浪速橋の上を電車が通る				堤燈をつけたボートが生物のよつた川の上を往ったり来たりしています。			
Act3	て、じつと川の底を覗いてみると、おいと音を掛		中華料理屋の客席の灯りが消え、歯医者二階の灯りが消え、	電車が途絶え			ボートの影も見えなくなる		夜	夜の底は次第に深くなって行
			川の向う正面はちょうど北浜三丁目と二丁目の中程あたりの、中華料理屋の裏側に当たって、明けはなした地下室の料理場が殆ど川の水とすれすれでした。その上は客室で、川に面した窓側で、若い男女が料理をつついています。話し合っているのでしょうか声が聞こえないのでだんまり芝居のようです。隣の家は歯医者らしく、二階の部屋で白い診療衣を着た医者が黙々と立ち働いているのが見えました。治療してもらっているのはどこかの奥さんらしくアッパッパを着て、スリッパを履いた両足をきちんとそろえて、仰向いています。	公園			その料理場では鋭い電灯の光りを浴びた裸の料理人が影絵のようにうごめいていました。その上は客室で、川に面した窓側で、若い男女が料理をつついています。話し合っているのでしょうか声が聞こえないのでだんまり芝居のようです。隣の家は歯医者らしく、二階の部屋で白い診療衣を着た医者が黙々と立ち働いているのが見えました。治療してもらっているのはどこかの奥さんらしくアッパッパを着て、スリッパを履いた両足をきちんとそろえて、仰向いています。			何か日々の営みのなつかしさを想わせるような風情でした。

解析結果：昭和初期（13シーン）

A c t名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素														川や周辺に対する 総合評価		
					河川					沿川				横断施設		遠景		人間活動		自然生態	変動要因
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他	自然要素				
暖簾 Act3	2	安治川付近	水中	水の無いところを求めて、大阪の高台の方へ逃れていく人の流れと反対に、吾平は大阪港の方へ向かって歩いて行った。														僅かな衣類や布団を背負って水の中を歩いて来る人、盥に子供を載せて気を失ったように歩いて来る母親、泥まみれの裸のままの子供たち、誰も彼もが水害に押しひしがれて、黙って水の中を力なく歩いている。			
暖簾 Act3	6	安治川付近	船				安治川の方へ近付くにつれて、泥海の広さは急に大きくなり／水の濁りも赤土色に濃くなり／船具や人の死骸まで遠くから流れてきた。／二階の屋根まで水高が迫っていた。							屋根の低い家は二階の屋根まで水高が迫っていた。							泥海



夜明け 辺り一面が泥の海であった。

(捨てた昆布が)ボンボン船のプロペラに巻きつき、なんぞ、遺恨あつてのことやろと、ボンボン船の親父は水上警察にかけ合い、吾平は呼びつけられたうえ弁償させられた。

解析結果:昭和初期(13シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素											川や周辺に対する総合評価				
					河川				沿川				横断施設		遠景		人間活動	自然生態	変動要因	
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁					その他
暖簾 Act3	2	安治川付近	水中	水の無いところを求めて、大阪の高台の方へ逃れていく人の流れと反対に、吾平は大阪港の方へ向かって歩いて行った。														僅かな衣類や布団を背負って水の中を歩いて来る人、盥に子供を載せて気を失ったように歩いて来る母親、泥まみれの裸のままの子供たち、誰も彼もが水害に押しひしがれて、黙って水の中を力なく歩いている。		
暖簾 Act3	6	安治川付近	船			安治川の方へ近付くにつれて、泥海の広さは急に大きくなり/水の濁りも赤土色に濃くなり/船具や人の死骸まで遠くから流れてきた。/二階の屋根まで水高が迫っていた。												屋根の低い家は二階の屋根まで水高が迫っていた。	泥海	

僅かな衣類や布団を背負って水の中を歩いて来る人、盥に子供を載せて気を失ったように歩いて来る母親、泥まみれの裸のままの子供たち、誰も彼もが水害に押しひしがれて、黙って水の中を力なく歩いている。



解析結果:昭和初期(13シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素														川や周辺に対する 総合評価						
					河川					沿川				横断施設		遠景		人間活動		自然生態	変動要因				
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他	自然要素					人工要素			
見聞	2	安治川	付水	水の無いところを求め																					

安治川の方へ近付くにつれて、泥海の広さは急に大きくなり／水の濁りも赤土色に濃くなり／船具や人の死骸まで遠くから流れてきた。

安治川の方へ近付くにつれて、泥海の広さは急に大きくなり／水の濁りも赤土色に濃くなり／船具や人の死骸まで遠くから流れてきた。／二階の屋根まで水嵩が迫っていた。

屋根の低い家は二階の屋根まで水嵩が迫っていた。

屋根の低い家は一階の屋根まで水嵩が迫っていた。

僅かな衣類や布団を背負って水の中を歩いて来る人、盥に子供を載せて気を失ったように歩いて来る母親、泥まみれの裸のままの子供たち、誰も彼もが水害に押しひしがれて、黙って水の中を力なく歩いている。

僅かな衣類や布団を背負って水の中を歩いて来る人、盥に子供を載せて気を失ったように歩いて来る母親、泥まみれの裸のままの子供たち、誰も彼もが水害に押しひしがれて、黙って水の中を力なく歩いている。



解析結果: 昭和初期(13シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素													川や周辺に対する総合評価				
					河川					沿川				横断施設		遠景			人間活動	自然生態	変動要因	
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他	自然要素					人工要素
暖簾 Act3	2	安治川付近	水中	水の無いところを求めて、大阪の高台の方へ逃れていく人の流れと反対に、吾平は大阪港の方へ向かって歩いて行った。															僅かな衣類や布団を背負って水の中を歩いて来る人、盥に子供を載せて気を失ったように歩いて来る母親、泥まみれの裸のままの子供たち、誰も彼もが水害に押しひしがれて、黙って水の中を力なく歩いている。			
暖簾 Act3	6	安治川付近	船																	泥海		
暖簾 Act3	1	安治川付近(境川)	水中	思いきって吾平も丁稚も、厚司とズボン脱いで、猿股と肌着一枚になり、厚司と肌着一枚になり、厚司とズボンは背中に背負った。泥水がズボズボと猿股の中に流れ込んできた。																夜明け	辺り一面が泥の海であった。	
暖簾 Act4	1	安治川付近(工場)	建物	泥水に濡れて腐った昆布は、工場裏の安治川に投げ捨てた。その翌日、警察の指示通り腐った昆布を舁に積んで、築港の沖まで捨てに行った。			泥水												工場(裏の安治川)		(捨てた昆布が)ポンポン船のプロペラに巻きつき、なんぞ、遺恨あつてのことやろと、ポンポン船の親父は水上警察にかけ合い、吾平は呼びつけられたうえ弁償させられた。	

泥水に濡れて腐った昆布は、工場裏の安治川に投げ捨てた。 / その翌日、警察の指示通り腐った昆布を舁に積んで、築港の沖まで捨てに行った。

(捨てた昆布が)ポンポン船のプロペラに巻きつき、なんぞ、遺恨あつてのことやろと、ポンポン船の親父は水上警察にかけ合い、吾平は呼びつけられたうえ弁償させられた。

(捨てた昆布が)ポンポン船のプロペラに巻きつき、なんぞ、遺恨あつてのことやろと、ポンポン船の親父は水上警察にかけ合い、吾平は呼びつけられたうえ弁償させられた。

解析結果：戦時中(9シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	河川景観構成要素														川や周辺に対する 総合評価				
				河川					沿川			横断施設		遠景		人間活動	自然生態		変動要因			
				河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素	人工要素	
私の大阪八景Act3	3	淀川	建物	トキコは先生と並んで、川面を、みおろした。		川面													大場先生はいいかけてめんどくさくなったのであろう。窓へよって校舎のすぐ裏をながれる淀川をみおろしながら、ロずさんだ。／赤ん坊が甲板で遊んでいる船が通ってゆくわ。あの船はおウチなのね。			
私の大阪八景Act3	4	淀川	建物		川幅	広い水面はきんきらと光っており／川水はなまあたかそうにみえ、ボンボン船が川のまん中をゆったりと通ると、大きな波がひろがって、土堤の裾の石垣の苔をピチャピチャと美味しそうに食べている。	土堤／土堤の裾の石垣	川幅の半分ほど埋めて、新しい青い葦が生い茂って風になびいている。／土堤の裾の石垣の苔										ずうっと向こうの対岸の工場街は、桃色の煙を吐く煙突が林立している。	ボンボン船が川のまん中をゆったり通ると／船の上には、腹掛けをした赤ん坊が匍っていた。赤ん坊を乗せて船はボンボンと上流へさかのぼっている。	風	こうやっている、と、世界中のどこにも戦争ないみたいね	
私の大阪八景Act4	2	淀川	土堤	やっと解放されると、淀川の土堤の陰になったところへ涼みに行く		ぎらぎらと煮えくり返る川水	土堤の陰になったところ／ぬるぬるした藻に	ぬるぬるした藻／淀川の葦は烈しい陽光の下で色あせもせず、ぎらぎらと煮えくり返る川水の										淀川の土堤の陰になったところへ涼みに行く。…石垣の下まで下りて、素足を冷やす人もある。	炎天下／烈しい陽光			
私の大阪八景Act5	2	淀川	土堤			水面に一面の葉が汚らしく散ってゆく。														秋雨		
私の大阪八景Act6	1	淀川	土堤	トキコは竹槍をひきずって、土堤へあがる。		川の面はずんだ光をたたえて水尾のちがう所は、波の模様も、水の色もくつきりがう。	土堤	淀川の葦はもうすっかり黄ばんで、川のあちこちにホーキを逆立てたようになっている。ざわざわと風がわたると、枯れ葦は骨のように鳴って											ざわざわと風がわたると／対岸のひとところに、よわい秋の日があたっていた。	荒涼たる景色である。		

ずうっと向こうの対岸の工場街は、桃色の煙を吐く煙突が林立している。

解析結果：戦時中(9シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素													川や周辺に対する総合評価								
					河川					沿川			横断施設		遠景		人間活動		自然生態	変動要因						
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素	人工要素				
私の大阪八景Act3	3	淀川	建物	トキコは先生と並んで、川面を、みおろした。			川面									窓／校舎							大場先生はいいかけてめんどくさくなったのであろう。窓へよって校舎のすぐ裏をながれる淀川をみおろしながら、ロずさんだ。／赤ん坊が甲板で遊んでいる船が通ってゆくわ。あの船はおウチなのね。			
私の大阪八景Act3	4	淀川	建物		川幅		広い水面はきんきらと光っており／川水はなまあたかそうにみえ、ポンポン船が川のまん中をゆったりと通ると、大きな波がひろがって、土堤の裾の石垣の苔をピチャピチャと美味しそうに食べている。		土堤／土堤の裾の石垣	川幅の半分ほども埋めて、新しい青い葦が生い茂って風になびいている。／土堤の裾の石垣の苔											ずうっと向こうの対岸の工場街は、桃色の煙を吐く煙突が林立している。	ポンポン船が川のまん中をゆったり通ると／船の上には、腹掛けをした赤ん坊が匍っていた。赤ん坊を乗せて船はポンポンと上流へさかのぼっていく。	風		こうやっている、世界中のどこにも戦争ないみたいね	
私の大阪八景Act4	2	淀川	土堤	やっと解放されると、淀川の土堤の陰になったところへ涼みに行く			ぎらぎらと煮えくり返る川水		土堤の陰になったところへ涼みに行く	ぬるぬるした藻／淀川の葦は烈しい陽光の下で色あせもせず、ぎらぎらと煮えくり返る川水の												淀川の土堤の陰になったところへ涼みに行く。…石垣の下まで下りて、素足を冷やす人もある。	炎天下／烈しい陽光			
私の大阪八景Act5	2	淀川	土堤																						秋雨	
私の大阪八景Act6	1	淀川	土堤	トキコは竹槍をひきずって、土堤へあがる。																					ざわざわと風がわたると／対岸のひとつとこに、よわい秋の日があたっていた。	荒涼たる景色である。

川幅の半分ほども埋めて、新しい青い葦が生い茂って風になびいている。

ポンポン船が川のまん中をゆったりと通る／船の上には、腹掛けをした赤ん坊が匍っていた。赤ん坊を乗せて船はポンポンと上流へさかのぼっていく。

解析結果：戦時中(9シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素													川や周辺に対する総合評価							
					河川					沿川			横断施設		遠景		人間活動		自然生態	変動要因					
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素	人工要素			
私の大阪八景Act3	3	淀川	建物	トキコは先生と並んで、川面を、みおろした。												窓／校舎							大場先生はいいかけてめんどくさくなったのであろう。窓へよって校舎のすぐ裏をながれる淀川をみおろしながら、口ずさんだ。／赤ん坊が甲板で遊んでいる船が通ってゆくわ。あの船はおウチなのね。		
私の大阪八景Act3	4	淀川	建物	川幅	広い水面はきんきらと光っており／川水はなまあたたかそうにみえ、ポンポン船が川のまん中をゆったりと通ると、大きな波がひろがって、土堤の裾の石垣の苔をピチャピチャと美味しそうに食べている。			土堤／土堤の裾の石垣	川幅の半分ほども埋めて、新しい青い葦が生い茂って風になびいている。／土堤の裾の石垣の苔													ずうっと向こうの対岸の工場街は、桃色の煙を吐く煙突が林立している。	ポンポン船が川のまん中をゆったり通ると／船の上には、腹掛けをした赤ん坊が匍っていた。赤ん坊を乗せて船はポンポンと上流へさかのぼっていく。	風	こうやっていると、世界の中にも戦争ないみたいね
				ぎりぎり煮えくり返る川水			土堤の陰になったところ、ぬるぬるした葉に	ぬるぬるした葉／淀川の葦は烈しい陽光の下で色あせもせず、ぎりぎり煮えくり返る川水の														淀川の土堤の陰になったところへ涼みに行く。…石垣の下まで下りて、素足を冷やす人もある。	炎天下／烈しい陽光		
																							秋雨		
																							ざわざわと風がわたると／対岸のひとつとこに、よわい秋の日があたっていた。	荒涼たる景色である。	

広い水面はきんきらと光っており／川水はなまあたたかそうにみえ、ポンポン船が川のまん中をゆったりと通ると、大きな波がひろがって、土堤の裾の石垣の苔をピチャピチャと美味しそうに食べている。

川幅の半分ほども埋めて、新しい青い葦が生い茂って風になびいている。

ポンポン船が川のまん中をゆったりと通る／船の上には、腹掛けをした赤ん坊が匍っていた。赤ん坊を乗せて船はポンポンと上流へさかのぼっていく。

解析結果: 戦時中 (9シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素														川や周辺に対する総合評価																						
					河川				沿川				横断施設		遠景		人間活動	自然生態		変動要因																					
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川構造物	河川植生	道路	道路付属	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素	人工要素																			
私の大阪八景Act3	3	淀川	建物	トキコは先生と並んで、川面を、みおろした。	川面																																				
私の大阪八景Act3	4	淀川	建物		川幅	広い水面はきんきらと光っており／川水はなまあたかそうにみえ、ポンポン船が川のまま中をゆったりと通ると、大きな波がひろがって、土堤の裾の石垣の苔をビチャビチャと美味しそうにめている。	土堤／土堤の裾の石垣	川幅の半分ほど埋めて、新しい青い葦が生い茂って風になびいている。／土堤の裾の石垣の苔																															こうやっているし、世界中的にも戦争ないみたいね		
私の大阪八景Act4	2	淀川	土堤	やっと解放されると、淀川の土堤の陰になったところへ涼みに行く		ぎらぎらと煮えくり返る川水	土堤の陰になったところ／ゆるゆるした藻に掩われた石垣	ゆるゆるした藻／淀川の葦は強い陽光の下で色あせもせず、ぎらぎらと煮えくり返る川水中にシャンと立って、まっさおにそよいでいる。																													淀川の土堤の陰になったところへ涼みに行く。…石垣の下まで下りて、素足を冷やす人もある。	炎天下／強い陽光			
私の大阪八景Act5	2	淀川	土堤			水面に一面の葉が汚らしく散ってゆく。		淀川の葦のつよい葉先が、力尽きたようにしだいに萎えはじめ、青さが失われ、やがて秋雨に叩かれて、水面に一面の葉が汚らしく散ってゆく。																														秋雨			
私の大阪八景Act6	1	淀川	土堤	トキコは竹槍をひきずって、土堤へあがる。		川の面はずんだ光をたたえて水尾のちがう所は、波の模様も、水の色もくつきりがう。	土堤	淀川の葦はもうすっかり黄ばんで、川のあちこちにホーキを逆立てたようになっている。ざわざわと風がわたると、枯れ葦は骨のように鳴って																															竹槍をひきずって、土堤へあがる。	ざわざわと風がわたると／対岸のひとつところに、よわい秋の日があたっていた。	荒涼たる景色である。

淀川の土堤の陰になったところへ涼みに行く。…石垣の下まで下りて、素足を冷やす人もある。

竹槍をひきずって、土堤へあがる。

竹槍をひきずって、土堤へあがる。

市場街は、桃色の煙を吐く煙突が林立している。

解析結果：戦時中（9シーン）

A c t	シ ン No	登 場 河 川	視 点 場	川 に か か り	河川景観構成要素												川 や 周 辺 に 対 する 総 合 評 価				
					河川					沿川				横断施設		遠景		人 間 活 動	自 然 生 態	変 動 要 因	
					河	河	水	河	河川構造物	河川植生	道路	道路付属	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素
					川	岸	面	川	物	生	沿	路	物	地	梁	他		景	景	動	態
私	大	阪	八	2	淀川	土堤	やつと解放さ														
景	Act	6																			

淀川の葦は烈しい陽光の下で色あせもせず、きらきらと煮えくり返る川水の中にシャンと立って、まっさおにそよいでいる。

淀川の葦のつよい葉先が、力尽きたようにしだいに萎えはじめ、青さが失われ、やがて秋雨に叩かれて、水面に一面の葉が汚らしく散ってゆく。

淀川の葦はもうすっかり黄ばんで、川のあちこちにホーキを逆立てたようになっている。ざわざわと風がわたると、枯れ葦は骨のように鳴って

淀川の土堤の陰になったところへ涼みに行く。…石垣の下まで下りて、素足を冷やす人もある。

竹槍をひきずって、土堤へあがる。

淀川の土堤の陰になったところへ涼みに行く。…石垣の下まで下りて、素足を冷やす人もある。

竹槍をひきずって、土堤へあがる。

土堤／石垣の裾の石垣

川幅の半分ほど埋めて、新しい青い葦が生い茂って風になびいている。／土堤の裾の石垣の苔

土堤の陰になったところ／ぬるぬるした葉に覆われた土堤

ぬるぬるした葉／淀川の葦は烈しい陽光の下で色あせもせず、きらきらと煮えくり返る川水の中にシャンと立って、まっさおにそよいでいる。

淀川の葦のつよい葉先が、力尽きたようにしだいに萎えはじめ、青さが失われ、やがて秋雨に叩かれて、水面に一面の葉が汚らしく散ってゆく。

土堤

淀川の葦はもうすっかり黄ばんで、川のあちこちにホーキを逆立てたようになっている。ざわざわと風がわたると、枯れ葦は骨のように鳴って

現場は、桃色の煙を吐く煙突が林立している。

大場先生はいいかけてめんどくさくなったのであらう。窓へよって校舎のすぐ裏をながれる淀川をみおろしながら、口ずさんだ。／赤ん坊が甲板上で遊んでいる船が通ってゆくわ。あの船はおうちなのね。

ポンポン船が川のまん中をゆったり通ると／船の上には、腹掛けをした赤ん坊が匍っていた。赤ん坊を乗せて船はポンポンと上流へさかのぼって行く。

こうやっている、と、世界中のどこにも戦争ないみたいだね

炎天下／烈しい陽光

秋雨

ざわざわと風がわたると／対岸のひとところ、よわい秋の日はあたっていた。

荒涼たる景色である。

解析結果：戦後から高度成長期(60シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素										川や周辺に対する総合評価						
					河川				沿川			横断施設	遠景			人間活動	自然生態	変動要因			
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川植生	河川構造物	道路	道路付属物	建築物	空地					橋梁	その他	自然要素
泥の河 Act1	3	安治川	橋の上																それはもう海の領域であった。		
泥の河 Act1	6	安治川、堂島川、土佐堀川								満潮時、川が逆流してきた海水に押し上げられて河畔の家の真下で起伏を描き									満潮時／ときおり潮の匂いを漂わせたりすると	満潮時／人々は近くに海があることを思い知るのである。	
道頓堀川 Act4	1	道頓堀川	建物	武内は川ぞいの大きなガラス窓から雨の道頓堀を見つめた。／彼はここしばらく、目を凝らして夜の街の光景に眺め入ったことはなかったの、煙草をくわえたまま、じつと対岸を見やっった。															夜／雨	こうやって見るとなかなかきれいなもんやなァ／ネオンが／雨が降ってるから、そんな気がするんかなァ。／雨に打たれて流れ落ちたネオンの色が、今この瞬間にも、川に注ぎ込んでいるかに思えた。	
道頓堀川 Act5	2	道頓堀川	橋の上	邦彦は弘美を戒橋の真ん中にまで連れて行き、欄干の傍らに寄って南の方角を頼でしゃくった。																秋もそろそろ終わりに近くなり、埃まじりのうすら寒い風が、群立するビルとビルの鋭角的な隙間から湧き立ってきた。／風は運河のはるか上を走り過ぎるのか、	戒橋の上から見えるのは、汚れた川と、ビルと、そこに揚げられた無数の看板だけである。

船舶会社の倉庫や(夥しい数の貨物船が)両岸にひしめき合って、

夥しい数の貨物船が両岸にひしめき合って

それはもう海の領域であった。

解析結果：戦後から高度成長期(60シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	河川景観構成要素															川や周辺に対する総合評価				
				河川					沿川				横断施設		遠景		人間活動	自然生態		変動要因			
				河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川植生	河川構造物	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他	自然要素					人工要素		
泥の河 Act1	3	安治川	橋の上																				それはもう海の領域であった。
泥の河 Act1																							満潮時/入々は近くに海があることを思い知るのである。
道頓堀川 Act4																							こうやって見るとなかなかきれいだな。ネオンが雨が降ってくるから、そんな気がするのかなア。/雨に打たれて流れ落ちたネオンの色が、今この瞬間にも、川に注ぎ込んでいるかと思えた。
道頓堀川 Act5																							秋もそろそろ終わりに近くなり、埃まじりのうすら寒い風が、群立するビルとビルの鋭角的な隙間から湧き立ってきた。/風は運河のはるか上を走り過ぎるのか、

極彩色の巨大な電飾版は、それぞれが、ぼうつとかすんだようになって、このミナミの街全体を覆い尽くしている。

水溜りにネオンの色が落ち、それが宗衛門町筋の路地に色とりどりの光を散らしている。

水溜りにネオンの色が落ち、それが宗衛門町筋の路地に色とりどりの光を散らしている。

極彩色の巨大な電飾版は、それぞれが、ぼうつとかすんだようになって、このミナミの街全体を覆い尽くしている。

極彩色の巨大な電飾版は、それぞれが、ぼうつとかすんだようになって、このミナミの街全体を覆い尽くしている。

雨に打たれて流れ落ちたネオンの色が、今この瞬間にも、川に注ぎ込んでいるかと思えた。

こうやって見るとなかなかきれいだな。ネオンが雨が降ってくるから、そんな気がするのかなア。/雨に打たれて流れ落ちたネオンの色が、今この瞬間にも、川に注ぎ込んでいるかと思えた。

そこに揚げられた無数の看板だけである。道頓堀通りの川筋側には、大きな食堂ビルや雑居ビルが積み木を重ねたように立ち並び、それに面して中座や角座などの劇場が、ひしめき合っている。/戒橋の上から見えるのは、汚れた川と、ビルと、そこに揚げられた無数の看板だけである。/群立するビルとビルの鋭角的な隙間

戒橋の上から見えるのは、汚れた川と、ビルと、そこに揚げられた無数の看板だけである。

解析結果：戦後から高度成長期（60シーン）

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素												川や周辺に対する総合評価			
					河川			沿川			横断施設		遠景		人間活動	自然生態		変動要因		
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川植生	河川構造物	道路	道路付属物	建築物	空地					橋梁	その他
泥の河 Act1	3	安治川	橋の上																それはもう海の領域であった。	
					汚れた川／道頓堀															
泥の河 Act2					川の表面には、とろんとした黒い光が浮かんでいるだけで、少しも波立とうとしない。														満潮時／人々は近くに海があることを思い知るのである。	
						潮時、川が逆してきた海水押し上げられ河畔の家の真で起伏を描き														
道頓堀 Act3						に打たれて流落ちたネオン色が、今この間にも、川にぎ込んでいるに思えた。													雨	
							水溜りにネオンの色が落ち、それが宗衛門町筋の路地に色とりどりの光を散らしている。													こうやって見るとなかなかきれいなもんやなァ／ネオンが／雨が降ってくるから、そんな気がするんかなァ。／雨に打たれて流れ落ちたネオンの色が、今この瞬間にも、川に注ぎ込んでいるかに思えた。
						夜の街の光景に眺め入ったことはなかったので、煙草をくわえたまま、じっと対岸を見やった。														
道頓堀川 Act5	2	道頓堀川	橋の上	邦彦は弘美を戒橋の真ん中にまで連れて行き、欄干の傍らに寄って南の方角を頼りしやくった。	汚れた川／風は運河のはるか上を走り過ぎるのか、道頓堀川の表面には、とろんとした黒い光が浮かんでいるだけで、少しも波立とうとしない。														秋もそろそろ終わりに近くなり、埃まじりのうすら寒い風が、群立するビルとビルの鋭角的な隙間から湧き立ってきた。／風は運河のはるか上を走り過ぎるのか、	

そこに揚げられた無数の看板

道頓堀通りの川筋側には、大きな食堂ビルや雑居ビルが積み木を重ねたように立ち並び、それに面して中座や角座などの劇場が、ひしめき合っている。

汚れた川／道頓堀川の表面には、とろんとした黒い光が浮かんでいるだけで、少しも波立とうとしない。

解析結果：戦後から高度成長期（60シーン）

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素										川や周辺に対する総合評価								
					河川			沿川			横断施設	遠景	人間活動	自然生態		変動要因							
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川植生	河川構造物	道路	道路付属物					建築物	空地	橋梁	その他	自然	人工	
泥の河 Act1	3	安治川	橋の上																			それはもう海の領域であった。	
泥の河 Act2																							満潮時／人々は近くに海があることを思い知るのである。
道頓堀川 Act3																							こうやって見るとなかなかきれいなもんやなァ／ネオンが／雨が降ってくるから、そんな気がするんかなァ。／雨に打たれて流れ落ちたネオンの色が、今この瞬間にも、川に注ぎ込んでいるかに思えた。
道頓堀川 Act4																							戒橋の上から見えるのは、汚れた川と、ビルと、そこに揚げられた無数の看板だけである。
道頓堀川 Act5	2	道頓堀川	橋の上	邦彦は弘美を戒橋の真ん中にまで連れて行き、欄干の傍らに寄って南の方角を顎でしゃくった。																			戒橋の上から見えるのは、汚れた川と、ビルと、そこに揚げられた無数の看板だけである。

汚れた川／道頓堀
川の表面には、とろんとした黒い光が浮かんでいるだけで、少しも波立とうとしない。

そこに揚げられた無数の看板

道頓堀通りの川筋側
には、大きな食堂ビルや雑居ビルが積み木を重ねたように立ち並び、それに面して中座や角座などの劇場が、ひしめき合っている。

戒橋の上から見えるのは、汚れた川と、ビルと、そこに揚げられた無数の看板だけである。

解析結果: 戦後から高度成長期(60シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素											川や周辺に対する総合評価							
					河川				河川				河川				河川						
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川植生	河川	河川	河川	河川	河川	河川								
泥の河 Act6	1	土佐堀川	橋のたもと		その場所に溜まったまま、干満のたびに濡れたり乾いたりする汚物の群れが、岸辺の泥の上で腐っている。																		
泥の河 Act7	1	土佐堀川	橋のたもと	信雄は川に視線を移した。	藁や板きれや腐った果実を浮かべてゆるやかに流れるこの黄土色の川																	黄土色の川や馬糞の転がるアスファルト道も、歪んだ灰色の橋、川筋の家々のすすけた光も、ことごとく汚いものように思えるのだった。	
道頓堀川 Act1	1	道頓堀川	橋の袂		歓楽街の翳を宿して、流れるか流れないかの速度で西へ動いていく道頓堀川の水が秋の朝陽を吸っていた。																		
道頓堀川 Act1	3	道頓堀川			墨汁のような色をたたえてねっとりよどむ																		墨汁のような色をたたえてねっとりよどむ巨大な泥溝である。
道頓堀川 Act1	4	道頓堀川			ほとんど流れのない／粘りつくような光沢を放つ／腐った																		あぶくこそ湧くことはないが、ほとんど流れのない、粘りつくような光沢を放つ腐った運河なのであった。
道頓堀川 Act2	1	道頓堀川	建物	準備を済ませると、邦彦はテーブルに腰かけて煙草を吸った。川岸に改修工事が施されたのは二年前の昭和四十二年である。	その汚れ	とどころ花壇も設けられた。	川岸に芝生が敷かれ、／緑の帯に鮮明にひちどられるようになって																月日が過ぎ、緑の帯に鮮明にふちどられるようになって、川は逆にその汚れをいっそう深くしてしまっただ。

解析結果：戦後から高度成長期（60シーン）

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素							川や周辺に対する総合評価									
					河川		水面	河川占有物	河川植生	横断	土		白	赤							
					河道	河道内微地形															
泥の河 Act6	1	土佐堀川	橋のたもと		岸辺の泥	その場所に溜まったまま、干満のたびに濡れたり乾いたりする汚物の群れが、岸辺の泥の上で腐っている。															
泥の河 Act7	1	土佐堀川	橋のたもと	信雄は川に視線を移した。		藁や板きれや腐った果実を浮かべてゆるやかに流れるこの黄土色の川															黄土色の川や馬糞の転がるアスファルト道も、歪んだ灰色の橋、川筋の家々のすすけた光も、ことごとく汚いものように思えるのだった。
道頓堀川 Act1	1	道頓堀川	橋の袂			歓楽街の翳を宿して、流れるか流れないかの速度で西へ動いていく道頓堀川の水が秋の朝陽を吸っていた。															
道頓堀川 Act1	3	道頓堀川				墨汁のような色をたたえてねっとりよどむ															
道頓堀川 Act1	4	道頓堀川				ほとんど流れのない／粘りつくような光沢を放つ／腐った															
道頓堀川 Act2	1	道頓堀川	建物	準備を済ませると、邦彦はテ	川岸	その汚れ	川岸に芝生が敷かれ、緑の帯に鮮明にふちどられるようになって														

その場所に溜まったまま、干満のたびに濡れたり乾いたりする汚物の群れが、岸辺の泥の上で腐っている。

藁や板きれや腐った果実を浮かべてゆるやかに流れるこの黄土色の川

歓楽街の翳を宿して、流れるか流れないかの速度で西へ動いていく道頓堀川の水が秋の朝陽を吸っていた。

墨汁のような色をたたえてねっとりよどむ

ほとんど流れのない／粘りつくような光沢を放つ／腐った

川岸に芝生が敷かれ、

月日が過ぎ、緑の帯に鮮明にふちどられるようになって、川は逆にその汚れをいっそう深くしてしまった。

十二年である。

月日が過ぎ、緑の帯に鮮明にふちどられるようになって、川は逆にその汚れをいっそう深くしてしまった。

解析結果:現代(1シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素										川や周辺に対する総合						
					河川					沿川			横断施設			遠景		人間活動	自然生態	変動要因	
					河道	河道内微	水面	河川占	河川植生	河川構造	道路	道路付属物	建築物	空地		橋梁	その他				自然要素
菓子の家 Act1	1	淀川	建物	(船のエンジン音がした。)善一は窓から顔を出して眼下の淀川を見下ろした。							(船のエンジン音がした。)善一は窓から顔を出して眼下の淀川を見下ろした。					横切る雲が時折空を闇にすると、梅田の方角に群立するビルの灯りが鮮明になる。／隣のラブホテルのネオンが誘蛾灯に飛び込んだ虫の悲鳴のような音を立てていた。				黒い平らな船がすべっていた。	窓のネオンが誘蛾灯に飛び込んだ虫の悲鳴のような音を立てていた。／また月が雲に隠れた。／船のエンジン音がした。



解析結果:現代(1シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素													川や周辺に対する総合評価				
					河川					沿川			横断施設		遠景		人間活動		自然生態	変動要因		
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川植生	河川構造物	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素	人工要素
菓子の家 Act1	1	淀川	建物	(船のエンジン音がした。)善一は窓から顔を出して眼下の淀川を見下ろした。			黒い水面							横切る雲が時折空を闇にすると、梅田の方角に群立するビルの灯りが鮮明になる。／隣のラブホテルのネオンが誘蛾灯に飛び込んだ虫の悲鳴のような音を立てていた。		鉄橋を渡る電車				黒い平らな船がすべっていた。	窓の外に半月が浮かんでいた。横切る雲が時折空を闇にすると、鉄橋を渡る電車のきしみが途絶えると川風の吹いて流れる音が聞こえた。隣のラブホテルのネオンが誘蛾灯に飛び込んだ虫の悲鳴のような音を立てていた。／また月が雲に隠れた。／船のエンジン音がした。	



横切る雲が時折空を闇にすると、梅田の方角に群立するビルの灯りが鮮明になる。／ラブホテルのネオン

窓の外に半月が浮かんでいた。横切る雲が時折空を闇にする／隣のラブホテルのネオンが誘蛾灯に飛び込んだ虫の悲鳴のような音をたてていた。鉄橋を渡る電車のきしみが途絶えると川風の吹いて流れる音が聞こえた。／船のエンジン音がした。

解析結果:現代(1シーン)

Act名	シーンNo	登場河川	視点場	川にかかわる行為	河川景観構成要素													川や周辺に対する総合評価				
					河川					沿川			横断施設		遠景		人間活動		自然生態	変動要因		
					河道	河道内微地形	水面	河川占有物	河川植生	河川構造物	道路	道路付属物	建築物	空地	橋梁	その他					自然要素	人工要素
菓子の家 Act1	1	淀川	建物	(船のエンジン音がした。)善一は窓から顔を出して眼下の淀川を見下ろした。			黒い水面							横切る雲が時折空を闇にすると、梅田の方角に群立するビルの灯りが鮮明になる。／隣のラブホテルのネオンが誘蛾灯に飛び込んだ虫の悲鳴のような音を立てていた。		鉄橋を渡る電車				黒い平らな船がすべっていた。		窓の外に半月が浮かんでいた。横切る雲が時折空を闇にすると、／鉄橋を渡る電車のきしみが途絶えると川風の吹いて流れる音が聞こえた。隣のラブホテルのネオンが誘蛾灯に飛び込んだ虫の悲鳴のような音を立てていた。／また月が雲に隠れた。／船のエンジン音がした。



横切る雲が時折空を闇にすると、梅田の方角に群立するビルの灯りが鮮明になる。／ラブホテルのネオン

窓の外に半月が浮かんでいた。横切る雲が時折空を闇にする／隣のラブホテルのネオンが誘蛾灯に飛び込んだ虫の悲鳴のような音をたてていた。鉄橋を渡る電車のきしみが途絶えると川風の吹いて流れる音が聞こえた。／船のエンジン音がした。

時代時代に応じた大阪固有の水辺の魅力

■ 明治後期

安治川付近は、沿川建築物の工場や住宅、残存農地、葦原からなる脆弱で荒廃した風景であった。一方、材木商が並ぶ四つ橋付近では、木遣りの音や木の香も一体となり、活気ある産業風景を呈していた。

時代時代に応じた大阪固有の水辺の魅力

■ 明治後期

安治川付近は、沿川建築物の工場や住宅、残存農地、葦原からなる脆弱で荒廃した風景であった。一方、材木商が並ぶ四つ橋付近では、木遣りの音や木の香も一体となり、活気ある産業風景を呈していた。

■ 大正期

夜の水辺風景を魅力的にしていたのは、建築物の灯りとそれを映す水面、涼をとるため夏簾1枚だけで川に面する芝居茶屋の開放的な姿や、馴染みらしい牡蠣舟客の人間活動であり、水面でゆれる明かりがそれらの風景に情緒を添えていた。初夏から秋にかけて貸しボート客でにぎわう水辺の様子は、活気ある魅力的な風景であった。

水面の移ろいや水辺の生物、月などの自然要素が多く享受され、豊かな水面の表情は、気候や天候とともに季節感を感じさせていた。

時代時代に応じた大阪固有の水辺の魅力

■ 明治後期

安治川付近は、沿川建築物の工場や住宅、残存農地、葦原からなる脆弱で荒廃した風景であった。一方、材木商が並ぶ四つ橋付近では、木遣りの音や木の香も一体となり、活気ある産業風景を呈していた。

■ 大正期

夜の水辺風景を魅力的にしていたのは、建築物の灯りとそれを映す水面、涼をとるため夏簾1枚だけで川に面する芝居茶屋の開放的な姿や、馴染みらしい牡蠣舟客の人間活動であり、水面でゆれる明かりがそれらの風景に情緒を添えていた。初夏から秋にかけて貸しボート客でにぎわう水辺の様子は、活気ある魅力的な風景であった。

水面の移ろいや水辺の生物、月などの自然要素が多く享受され、豊かな水面の表情は、気候や天候とともに季節感を感じさせていた。

■ 昭和初期

着色電球に彩られた近代的な道頓堀の風景と近世から続く牡蠣舟の商業活動が、水面の表情やひたひたと聞こえる水音とともに融合し、華やかで情緒的な風景であった。

また、対岸から捉えられた商業建築物内の人間活動は、無音芝居のように物語性を感じさせていた。

時代時代に応じた大阪固有の水辺の魅力

■ 戦時中

臨戦体制により拡大した工場街が遠景に捉えられたが、淀川の河川景観は主に納涼やポンポン船の渡航などの穏やかな人間活動や、一面に広がる葦原の広大な風景から構成され、それらは戦時下の緊張を一時緩和していた。

時代時代に応じた大阪固有の水辺の魅力

戦時中

臨戦体制により拡大した工場街が遠景に捉えられたが、淀川の河川景観は主に納涼やポンポン船の渡航などの穏やかな人間活動や、一面に広がる葦原の広大な風景から構成され、それらは戦時下の緊張を一時緩和していた。

戦後から高度成長期

安治川内陸部の両岸には船舶会社の倉庫や貨物船がひしめき、海を感じさせる風景であったものの、潮の匂い以外はあまり意識されていなかった。

道頓堀川では唯一夜の水面に映るネオンによって魅力的な風景が生み出されているだけであり、昼は表情のない無機的な水面として捉えられていた。また川岸の色鮮やかな芝生が川の汚れを強調し、評価は低かった。

時代時代に応じた大阪固有の水辺の魅力

戦時中

臨戦体制により拡大した工場街が遠景に捉えられたが、淀川の河川景観は主に納涼やポンポン船の渡航などの穏やかな人間活動や、一面に広がる葦原の広大な風景から構成され、それらは戦時下の緊張を一時緩和していた。

戦後から高度成長期

安治川内陸部の両岸には船舶会社の倉庫や貨物船がひしめき、海を感じさせる風景であったものの、潮の匂い以外はあまり意識されていなかった。

道頓堀川では唯一夜の水面に映るネオンによって魅力的な風景が生み出されているだけであり、昼は表情のない無機的な水面として捉えられていた。また川岸の色鮮やかな芝生が川の汚れを強調し、評価は低かった。

現代

水上バスのエンジン音が川への視線を誘導し、スマートな船体が特に注目された。また、人工環境化した都会の中で、月や川風が特に注目され、自然に対する希求の強さを伺わせていた。

まとめ

- 大正期に多様な行為の魅力を支えていたことや、戦時下における緊迫した生活の中で一時の開放感を感じさせていたことに代表されるように、豊かな水面の表情や移ろい景観、水辺の生物などは、都市において情緒や季節感を感じさせる貴重な自然要素である。
- 貸しボートなどの季節限定の水辺利用だけでなく、材木浜の木遣りや水面に浮かぶ牡蠣舟、川に開放的な芝居茶屋など、日常的に川と人とを密接に関係付ける産業および商業活動が、活気やにぎわいある魅力的な河川景観を創出していた。
- 水上バスのエンジン音が、唯一川への意識を向けさせていることにみられるように、水辺での音や匂いも河川景観を演出する上で重要な要素である。

まとめ

- 大正期に多様な行為の魅力を支えていたことや、戦時下における緊迫した生活の中で一時の開放感を感じさせていたことに代表されるように、豊かな水面の表情や移ろい景観、水辺の生物などは、都市において情緒や季節感を感じさせる貴重な自然要素である。
- 貸しボートなどの季節限定の水辺利用だけでなく、材木浜の木遣りや水面に浮かぶ牡蠣舟、川に開放的な芝居茶屋など、日常的に川と人とを密接に関係付ける産業および商業活動が、活気やにぎわいある魅力的な河川景観を創出していた。
- 水上バスのエンジン音が、唯一川への意識を向けさせていることにみられるように、水辺での音や匂いも河川景観を演出する上で重要な要素である。



特に繁華性の低下した現代の大阪の水辺において、水辺の表情や移ろい性、川と人とを密接に結びつける商業や産業活動とともに、そこから生み出される音や匂いなどを総合的に創出していくことが求められる。